
神すら予期しなかった天才イレギュラーはトリップする（タイトルは仮です）

Sun

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神すら予期しなかった天才イレギュラーはトリップする（タイトルは仮です）

【Nコード】

N0382S

【作者名】

Sun

【あらすじ】

世界のイレギュラーそれは2種類存在する。

神が意図的に生みだしたイレギュラー、神すら予期せず自然発生するイレギュラー、

そんな自然発生したイレギュラーで言うなら知識のイレギュラーは知識の女神の手で特典を与えられインフィニット・ストラトスの世界にトリップする。

プロローグ1（前書き）

作品では出来るだけ3人称で頑張ろうと思います。

プロローグ1

神童、天才、鬼才、化け物、狂人、

それがこの物語の主人公アーミア・A・イスカーチェリに付いた渾名だった。

アーミア・A・イスカーチェリは日本人の母を持ちロシア人の父を持つハーフでイスカーチェリ財団の御曹司として生まれた。

アーミアは生まれた時から不気味なほど優秀さを発揮した。

ただし優秀すぎるがゆえに15歳の時には世界から狙われることになった。

その際アーミアは前々から作っていた天空要塞を起動させ一人空を漂ったのだが地上ではアーミアが残した研究を求めて戦争が勃発した。

当然アーミアにも戦争の火の粉が降りかかった。

しかしそれをアーミアは全て返り討ちにしさらに攻撃を仕掛けた。本来圧倒的な数の差で負けるがアーミアは常に優勢だった。

その理由はアーミアが作り出した3つの兵器、

機械仕掛けの天使『エンジェロイド』と防衛システム『ゼウス』、そしてナノ兵器『アルスティア』、

そして何を思ったのかアーミアは地上の人類に自分以外の人類を滅ぼすことを宣言、

今までは『エンジェロイド』と『ゼウス』で防衛していたのを『エンジェロイド』と『ゼウス』で防衛＋『エンジェロイド』で攻撃になり遂に『アルスティア』を自分以外の人類に攻撃に設定し地球に散布した。

散布から1年遂に人類はアーミアを残し滅んだ。

「『アルスティア』からの情報を確認地上に人類はいません。
終わりましたマスター」

今や空ではなく宇宙に浮いている天空要塞の一室で鋭利な刃物の
ように禍々しい形状の3対の翼を持った女性は玉座のような椅子に
座った人物に言った。

マスターと呼ばれた人間こそこの物語の主人公アーミア、性別男
だが少女にしか見えない。

ハッキリ言って胸のない少女と言われればだれもが納得する容姿
だ。

「ご苦労様カオス、

それにしてもこれで私以外の人類滅亡ですかあっけなかつたです
ね。

私を捉えようとしなければ、あるいは地球を傷つけられればこん
なことにはならなかつたのになんて愚かな人類、

わざわざ私が私の暮らしやすいように世界を変えるんじゃなく天
空要塞と言う私の過ごしやすい世界を作って引きこもったんですか
ら」

アーミアの作りだした天空要塞は国としても機能できている。

もっとも住んでいる人間はアーミアのみで後はアーミアが作りだ
したエンジェロイドだが、

「そもそも戦争するにしても母なる地球は大切にしないとね。

核に比べて私の『アルスティア』はなんて地球にやさしい兵器な

「んだらう」

は〜とため息をつきながらまるで子供が終われたおもちゃに用は無いというような風に言った。

（ぶっちゃけ私にとつてどうでもいい人間なんか滅んでようが生きてようがどうでもいいんですけどね。

私人間は自分と両親と祖母と双子の妹しか興味無いですから、人類を滅ぼしたのは戦争の原因を生み出したものなのけじめなんですけどね。

まあけじめで人類を滅ぼすなど他の人間からしたら理解不能でしょうけど、

ま、けじめって言うっても私の世界では無くなったから滅ぼうがどうでもいいってのが8割占めてたけど

それにしても今の状況は10歳の時に予想したままですね。

まあ途中からは両親も祖母も妹も死んだから乗りと八つ当たりで滅ぼしちゃったんですけど）

アーミアは10歳のときすでにこのまま自分が好きにやればいけば戦争が起きその後自分が人類を滅ぼす可能性があるかと予想していた。

「……………さてと暇ですね。

やっぱり日本は残しておくべきでしたね。

私、日本のアニメとゲーム結構好きですし、

まあ作家やらの脳内情報は『アルスティア』に記憶させてバックアップを取ったからそこから思考パターンも再現すれば喜怒哀楽とかは無いからちゃんとした続きではありませんが多少の暇つぶしにはなるかな？」

そう口元を釣り上げながらアーミアが言い終わると同時にカオスと呼ばれたの者とは違う薄い桃色の美しい翼を持った人物があわてた様子で言った。

「マスター！」

「どうしたんですか？」

イカロス」

イカロスのあわてた様子に少々驚きながらアーミアは聞いた。

「大変です宇宙が消滅していきます！」

すでに木星まで消滅しました！」

この宙域も残り13ミニットで消滅すると思います！」

「は？」

え、何それいくら私が天才でもどうしようもなく無いですか？

時間もないですし」

アーミアは言われた意味が一瞬理解できなかったが瞬時に理解すると同時に状況の打開方法を思考を無数に分割し探すが即座に不可能と判断した。

「とりあえず悪あがきでもしますかね。」

イカロス最後に消えると思われるポイントは？」

「ちょうど太陽です」

「そうですか、

『システム起動、思考パターン、人格、知識、思考パターン、人格を優先でガイアへコピー開始、コピー限界時間10ミニット』」
『了解いたしました』

アーミアが言うところからか声が響きアーミアの座っている椅子

から様々な機器が出てきてアーミアの頭を固定した。

『……3、2、1、0コピー終了。』

人格70%、思考パターン80%、知識50%コピー完了』

「『ガイアおよび完成している第三世代エンジェロイドを脱出艇に乗せ射出』」

『了解いたしました。ガイア、ティア、テミス、ヘラを脱出艇に乗せ射出しました』」

「『脱出艇A Iに通達、消滅ぎりぎりを飛び太陽へ向かいなさい』」
『リヨウカイ』

「……さてと無駄の可能性が限りなく100%ですけどやれることはやったね。

さてと、イカロス、カオスおいで』」

アーミアが立ちあげって言うとかオスとイカロスが抱きついてきた。

「あゝあ終わりが、

まあ最後が大切な存在と一緒にだから幸せなのかな？」

アーミアは抱きしめ返すと呟いた。

こうしてアーミアは世界と共に終わりを迎えた。

プロローグ2（前書き）

主人公と知識の女神の口調が安定していないのは一応わざとです。

プロローグ2

（・・・ん？ 消えてない？

私は死んだと思ったんだけど？

正確には消滅だけど）

「それは我がそなたを招いたからよ」

アーミアは声が聞こえた瞬間その声が聞こえた方向から離れ言った。

「『Aプログラム起動』」

しかし何も起こらなかった。

（なぜ？

体に異常は感じない）

アーミアはもしもの時の為に自分の体を改造しエンジェロイドの機能を一部取り入れている。

今はそれを起動させようとしたが出来なかった。

アーミアが声の方を見ると光り輝く女性がいた。

「無駄よ。

ここは我の空間」

（無駄ね、、

私自分で試さないで無駄とか無理って決めるのは嫌なんですよね）
「ほう？

人間にしてはいい心がけではないか」

(・・・私の思考を読んでは
なら)

アーミアは思考を無数に分割し複雑な暗算をし、暗記していた物語を一字一句間違ひなく黙読し、さらに似たようなことでありながら微妙に違うことを考え始めた。

「へえ、利口ね。」

「けどやめておきなさい。」

心を読む能力を持った人間ならともかく我は神、小細工は通用しないわ」

「・・・」

「だから無駄よ。」

「今あなたが事実か測ってることも分かってる」

「・・・あなたはだれです？」

女性の言った通り無駄だと判断したアーミアは思考分割をやめ聞いた。

「そうね。」

「知識の女神とでも言っておきましょうか？」

「女神？」

「神が何の用ですか？」

「そなたには転生をしてもらう」

(転生、あれですか？)

よくあ二次創作ものである間違えて殺して転生？

「けどそれじゃあ——」

「違う」

「でしょうね。」

宇宙が消滅していったんです。間違えたにしては大規模です。

いえ神のミスなら大規模でもありですかね？」

「ハッキリ言おう我ら神は絶対ではないわ。

ゆえに間違い人を消してしまうこともあるが気にも留めないのよ。そなたらが虫を殺すのとまあ似たようなものよ」

「なるほど流石は神と言ったところかな？」

「ゆえに我らが人を転生させるのは我らの娯楽のためか仕事をさせるためだ」

「仕事？」

「そうだ。

我らは絶対ではない。

ゆえに世界にはイレギュラーが混ざることがあるその排除をさせるのよ」

「ふゝん」

「まあ物好きな神やゼウスなどの下位の神は善意などで転生させたりするがな」

「ゼウスは下位なんですか？」

「すくなくともそなたたち人間が知っている神は下位だ。

人間は我らの名すら認識することすらできない。

名を聞けばそれだけで狂うわ」

「かと言ってあなたたちが最上位でもない」と

「よくわかるわね。その通りよ。

我らが認識できぬだけでまた上の神が存在するかもしれないわ」

「で、あなたは どうして私を転生させるの？

娯楽？ 仕事？ それとも物好きな神？」

「全てよ。

そなたを送る世界にはイレギュラーがいる。

最も排除しろなんて言わないけど、

そして我はそなたを気にいった」

「神に気にいられるとはね。

理由が気になるな」

「そなたはイレギュラーだったのだ」

「確かに私はあらゆる面で異常だったね」

「それは違うわ。」

確かにそなたはあらゆる面で異常な才を持つておったが世界から異常と認識されたのは知識面だけ、他はあくまで天才なだけ、

知識の女神たる我は言うなら知識のイレギュラーであるそなたに興味を持つのはある意味必然と言える。

それにそなたはイレギュラーを生み出したしね」

「イレギュラーを？」

「そう。」

そなたの世界はそなた以外人が滅んだから世界を消去して新しい世界を作ろうと思ったんだがその際に太陽を核に新しい世界を作ったから太陽にあったそなたの置き土産は残ってね。

新しく作った世界は元が魔法少女リリカルなのはの世界だったんだがその世界でとりあえず1つの世界を制した後虚数空間に干渉する技術を作ったのち世界ごと移動させて外部からの干渉を限りなく0にして隠居した。

その後たまたまプレシア・テストロッサとその娘がその世界に来て原作開始をすると介入し始めたけど色々めちゃくちゃにしたわ」

「流石私の分身として作りだした上に人格70%、思考パターン80%、知識50%をコピーしただけありますね。」

そういえば聞きたいんですけど何で私は排除されなかったんです？

イレギュラーでしょ」

「イレギュラーは別に必ず排除しなければならないわけではないので全部を排除するわけではない。」

イレギュラーと言えど下位の神ならまだしも我々上位の神には干渉出来ぬからな。

そなたには1人派遣したのだがそなたが消したのだ」

「……………覚えてないし少ないね。」

排除しようとしたなら失敗したら次も送り込まないの？」

アーミアは自身の知る有能な人間を思い出したが該当するような人間に心当たりはなかった。

「仕方があるまい。」

そなたの世界に魔法など神秘は無かったのだ。

それゆえに転生者にも特典として神秘に属するものを渡すことは出来ぬから知識を渡したのだが特典の数などの限界はその者の器で決まる。

そのものの器限界に知識を渡してもそなたに及ばなかったのだ。

複数送り込まなかったのはそなたの世界は物語と言ったわけではないから転生者候補をそなたの世界に送り込もうとしたら文句を言ってきたので消してしまったのよ。

そのものの生きた痕跡から全て」

「ふーん、どうでもいいや」

自分の大切に含まれていないどころか興味などのカテゴリーに入っていないその他の有象無象の生きた痕跡が消えた所で憐れみすら感じないアーミアは心底どうでもよさそうに流した。

「で、どうするの選択肢を上げわ。」

転生するかしないのか、

そうね転生してイレギュラーを排除したら3つ願いをかなえてあげるわ。

まあ限度はあるけど」

「転生しなければ？」

「消えてもらうわ」

「・・・転生してその世界で生きるにあたって私の行動は全て私の意思？ 神による干渉とかはあるの？」

「ないわ」

「その証拠は？」

「そうね。」

契約してあげるわ。

証拠は無いけれど神は契約を破れない。

契約を破ればその力は、今回の場合私の力は全てそなたのものとなり我は消えるわ。

ゆえにそなたに話すことは全て真実であると契約するわ。

今までの話にも嘘が無いとも契約するわ」

「分かりました。

どっちにしろ証拠はありませんからそこまで言うなら転生しましょう」

「そうかでは特典を授けようと思う。

内容はそうだな私の趣味だがちょうどそなたと同じ名の登場人物がいるのも何かの縁と言うことでそなたの肉体を少々元とは違うが純粹種のイノベーターとELSが融合した肉体、

あとは魔改造ソレスタルビーイング号とISコアのような機能を搭載したISコアサイズのGNDライブと通常のGNDライブを各5個、老化操作能力、ヴェーダ、疑似量子テレポート能力をくれてやろう。

ん？ ガンダム00を知らんのか？ ならその知識はおまけよ。

ソレスタルビーイング号にはハロは搭載してあるし食料や資源を生み出す特殊機関を搭載しておいた」

「で、行く世界はどこです？

物語の世界ならその世界の名前をそうでないならその世界の特徴を教えてくださいんですけど」

「インフィニット・ストラトスよ」

「確か原作は2巻で終わってましたね。

戦争が原因で」

「そうよその500年ほど前に行ってもらおうわ」

「原作開始前に死んでます。」

いえイノベーターとE・L・Sの融合した肉体は成長が通常のイノベーターより遅いから生きてるんですかね？」

「生きては生きているけどより介入しやすいように老化操作能力を上げたのよ」

「なるほど老化を止めるも早めるも自由自在と」

「ええそして転生ではなくトリップさせるけどその時は4歳程度にしておくわ」

「なら原作主人公あたりと同じ年に生まれたことにしておいてそれまでは老化を止めて置いて主人公4歳あたりからは老化を通常の間並にすればいいですね。」

そして500年あれば色々出来るであろう？」

「そうですね。」

500年もあれば本当に色々だね」

2人は口元を釣り上げ笑った。

「では特典を授けるわ」

知識の女神が言うとアーミアを光が包みこんだ。

「容姿が変わってますね。」

まあ元の割合は4割程度残ってますけど、

後は00のアーミア・リーですね」

アーミアは知識の女神が出したと思われる鏡に映った自分の姿を見ながら答えた。

「正確には元の容姿は2、3割程度よ。」

髪型と髪の色が元のままだからそう感じるだけで、

「じゃあ小さくするわね」

知識の女神が言つとアーミアを再度光が包んだ。

「じゃあそろそろ行つてもらうわ」

「その前に1つお願いがあるんですよ」

「なにかしら？」

「私のイカロスとカオスのデータを感情まで完全にヴェーダの中にインストールして貰いたいんです」

「それぐらいなら構わないわよ。」

本体を元のまま一緒にトリップさせましょうか？」

「いえあの2人は第1世代と第2世代初期ですから、特別であるが故第2世代後期とすら互角に戦えますけどね。」

けど第3世代よりは弱いですからちょうどいいので新しい体にしようと思つてたんです」

「まあ構わぬ。」

では今度こそ行つてもらおうわ」

「あなたとはまた会えそうな気がするのでまた会いましょうと言つておきます」

「そう奇遇ね。」

我もよ」

女神が言つとアーミアを光が包みアーミアは消えた。

「イレギュラーは似た存在すら平行世界を探してもいない。

そなたほど我好みの人間など人の数では数え切れぬほどの過去と

この先1不可思議年先まで探してもいないのだから」
「どういっつもりじゃ」

女神が呟くと光と共に1人の老人が現れた。

「久しいな創造の」

「答えよ知識のわざわざイレギュラーを転生させるなどどういっつもりじゃ。」

しかもあの人間は別のイレギュラーを生み出した人間じゃぞ。

楽しむのなら普通の人間でよいじゃろ」

「細かいことは気にするものじゃないわよ。」

まあそなたは創造の神、ゆえに人も他の上位の神と違い少々とはいえ気にかける性質を持っているの知っているけど」

「・・・・・・」

「言っておくが干渉してみろ消すぞ。」

そなたは創造を司る神、

その気になれば下位の神や世界をいつでも自在に生み出せる力、条件がそろいかつ無理をすれば比べれば力が弱いとは言え同格の神すら生み出すそなたの力は我々上位の神の中でも強力だがそれ〃戦鬭につながるわけではない。

そもそも同格の神を殺せるのは破壊の神と我ぐらいのもの。

破壊の神はその名の通り破壊を司るがゆえに同格の神を破壊し殺しけす。

我は知識の女神ゆえに同格の神すら殺すための知識を所有している」

「・・・・・・元々干渉する気はない」

「そうならいいわ。」

なんならそなたも楽しむがよい。

さあ楽しませてちょうだい」

知識の女神は狂気の笑みを浮かべながら言いその後ろでは創造の

神が呆れた顔をしていたとか、

プロローグ2（後書き）

最後の神どおしの会話は思いついたから載せただけで特に意味はない予定です。

主人公設定（4月23日微変更）

【名前】

転生前：アーミア・A・イスカーチェリ、
転生後：アーミア・A・S・スキエンティア、

【容姿】

転生前：スーパーロボット大戦のアルフィミイ似（性別男）
転生後：ガンダム00のアーミアをベースにアルフィミイを足した感じでアーミア6割、アルフィミイ4割だが髪型と髪の色がアルフィミイと同じなのでそう感じるだけで髪を除けばアルフィミイは2、3割程度、
髪はアルフィミイと同じ水色で髪型も同じ、
瞳の色はアーミアと同じ、

【神から与えられたもの】

純粹種のイノベーターとELSが融合した肉体（ELSは共生しているのではなくあくまで自分の体の為ELS部分を使いELSと同じようなことが出来る）

魔改造ソレスタルビーイング号（ハ口など搭載＋食糧や資源を生み出す不思議機関などがある）

ISコアと似たような機能を持ったISコアサイズのGNDドライブ×5（IS型GNDドライブ）

GNDドライブ×5

老化操作能力

ヴェーダ

疑似量子テレポート能力（ソレスタルビーイング号へとソレスタルビーイング号から元の位置の半径10mへの量子ゲート作製と短距離のみ）

ガンダム00の知識

【備考】

イレギュラー、

知識の女神には知識のイレギュラーと言われる。

その知能面は異常だがそれ以外も天才で武術などでも一流の実力を持つ。

転生前は大切と言える存在は人間では両親と双子の妹と人間以外ではイカロスとカオス、

性格はあまりいいとはいえず自分がやっても気にしないが他人がすると嫌悪したりすることもある。

知識の女神にインフィニット・ストラトスの原作開始約500年前にトリップさせられた。

トリップ後は世界の中にありながら別の世界のような国か何かを作るために行動している。

第一話 準備開始

「ん？」

どうやらインフィニット・ストラトスの世界かどうかはわかりませんが、少なくともトリップしたみたいですね」

アーミアが目を覚ますとソレスタルビーイング号の中だった。

「とりあえずここがどこらへんか調べましょう」

アーミアが言っていると目の前に画面が現れた。

「……なるほど流石魔改造」

アーミアはそう呟くと目の前の画面に触れ操作し調べ始めた。

「月軌道ですか、

まあ地上に無く500年前ならまず見つからないから問題ありませんね」

アーミアは現在位置を確認するとさらに操作し調べる。

「ふん。

とりあえずここで作業する人員はイノベイドを生み出すことにして問題は地上への介入、

出来れば原作までに世界の中にありながら違う世界のような国が何かを作り上げたいですね。

……イノベイドを改造して年をとりおいて死に子を生め、

生まれる子供もたとえ人間との間の子ですらもイノベイドであるイノベイドを生み出してそれを世界各地に情報収集目的でばらまく。

人に紛れ込ませるのはそう難しいものじゃない。

その中で一部の固体には使命として国で地位を手に入れのちに財閥などを作るように財をためるようにするとその子にも同じ使命を与えればイノベイドは思考速度、身体能力から普通の人間よりも優れているから出来ますね。なにより代を重ねても目的や思想が一切変わらないのがすばらしい。

あとは元から地位のある夫婦のDNAパターンを摂取してそれを掛け合わせたイノベイドを作って出産のときに周囲の人間の脳をハックして双子だったと思わせてまぎれさせてもいいし、

まあ昔は双子は片方殺されたりしたみたいだけど確率は2分の1だしこれもありだね。

後々地位、影響力を持った家系となったイノベイドどうしを結びつけ合併と言う形で徐々に影響力を上げて行けばいいですね。

そのあとは巨大な人工島でも作って国みたいにどこぞの学園都市みたいにそこだけ外よりも2、30年科学が進んでるみたいにしめよう。

そうなったらついでに宇宙に行くのが夢の時点で各国に根回しして火星と金星と月は領土にしめよう」

あとはとさらに情報を見ながら呟いた。

「GNDライブも機体の材料もあるのに機体が無いですからガンダムも開発しめよう」

画面を消すとアーミアは目をつぶりながら呟いた。

「それにしてもイノベーターとELSの融合した肉体ですか、とてつもなく便利ですね。

共生とは違いE L Sも私の肉体。

一応意思はあるみたいですけどそれは私のコピーのようなもの、私をサポートする私、

それゆえに多少の違いはあれど根本は同じ。

まあこれからE L Sの意識は成長するみたいですけどそれも私は支配しようと思えば出来ると、

本当に便利ですね。

あとでE L Sの力も試してみましよう」

さてと、と呟きアーミアは歩き出した。

「とりあえずイノベイドを改造しないと始まりませんからね」

第一話 準備開始（後書き）

どうでもいいですけどアーミアは知識以外でも天才という設定なので載せてみました。

戦闘面、

アーミア（転生後）＞千冬 アーミア（転生前）

知識面、

アーミア（転生後）＞アーミア（転生前）＞越えられない壁＞束
＞越えられない壁＞ISキャラ

転生後上がっているのは純粹種のイノベーターとELSが融合した肉体になったため身体能力などが上がったから、

ただし当然ながら現時点では老化を止めており幼いため戦闘面はあくまで成長したからです。

第二話 イノベイド改造終了。考察、（4月3日修正）

「・・・・・・・・まあこれが限界ですね」

アーミアはソレスタルビーイング号の一室で呟いた。
アーミアがいる部屋はイノベイドの作製を行う部屋だ。

「あれから約100年長かった。

とりあえずイノベイドと同士なら100%、片方が人間でも男側がイノベイドなら約75%、女なら約90%とのイノベイドが出来ました。

70年前の時点で60%越はしてたんですけど70%からきつくなっただんですね。

それに時がたち科学が進んでもイノベイドであるとはれないようにするための処理が大変だったんですね。

まあおかげで私でもイノベイドだと分かる方法が限られたんですけど」

アーミアの偽造処理を行ったせいで予定よりもイノベイドの改造は遅れてしまったがそのかいはありアーミアでもイノベイドかどうかはヴェーダから知るか自身の権限でイノベイドとリンクする以外では出来なくなった。

なおガンダム00と違いアーミアは地上に下ろす為に作ったイノベイドは全員遺伝子をいじっているため似た容姿のイノベイドは居てもそっくりなのはいいない。

ちなみにソレスタルビーイング号では作業用イノベイドが90年前から働いており地上にもある程度完成のめどが立った時点で完成

した後人格を移せばいいと同じDNAパターンのイノベイドを派遣していたりする。

「まあ他のこともしていたのも原因ですけどね」

アーミアは呟くと宙に浮かんだ画面に映し出されたソレスタルビーイング号の外の景色を見た。

そこに映し出されたのは地球でも月でも無く木星、

「とりあえず色々データが取りたいからあと最低3つぐらいGNドライヴが欲しいんですね。」

GNドライヴは性能が一定ではなく癖のようなものがあるから機体に同期させるのに相性の問題が出ますからね。

まあ元からそれを想定して作ればいいんですけどそれで作りたいが作れないと嫌ですからね。」

私に将来必要となるのはISではなくガンダムですから」

アーミアは目をつぶるとトリップした当初から考えていた考えについて思考した。

（知識の女神は言った。

そなたの世界に魔法など神秘は無かったのだそれゆえに転生者にも特典として神秘に属するものを渡すことは出来ぬって、

つまり世界に異物はその世界でありえないものは持ち込めないと考えられる。

そして私が女神から貰ったものは純粹種のイノベーターとELSが融合した肉体、ソレスタルビーイング号、

ISコアと似たような機能を持ったISコアサイズのGNドライヴとGNドライヴが各5つ、老化操作能力、ヴェーダ、疑似量子テレポート能力、ガンダムOOの知識、

まずGNドライブ、ISコアと似たような機能を持ったISコアサイズのGNドライブ、ソレスタルビーイング号、ヴェーダこれは別に異物ではない。

ISコアと似たような機能を持ったISコアサイズのGNドライブはGNドライブのサイズの問題があるがそれは時間を明け研究すればいずれそこまで小型化できる可能性がある。

ついでに知識さえあれば全て元々トリップする前でも作れる自身がある。

まあその際には体を改造して寿命の問題をクリアしないといけないけどそれは楽し、

つまりGNドライブ、ISコアと似たような機能を持ったISコアサイズのGNドライブ、ソレスタルビーイング号、ヴェーダは科学が進めばいずれ作られる可能性はある。

疑似量子テレポートだってGNドライブがあり量子テレポートが出来るようになれば機能を限定すればいい話だし、

老化操作能力、これだって問題ないナノマシンとか使えばトリップ前から出来た。

……まあ普通の体のままじゃ無理だけどそこはELSってことで、

さてこれで残ったのが純粹種のイノベーターとELSが融合した肉体とガンダムOOの知識の2つ、

ガンダムOOの知識はある程度融通がきいたとも考えられるのでひとまず置いておく、

だってこんなこと考えていたらたとえば私にはトリップ前に見ていた小説や漫画、ゲームの知識だってある。

まあこれはいずれ出来ると言われるかあくまで渡せないだけで元々持っていたものは別って場合も、

……後者の確率が断然高いですね。

最後のイノベーターとELSが融合した肉体、これは地上に偵察目的で下したイノベイドから送られてきた人間の遺伝子情報から純

粹種のイノベーターになるための素質のある人間が居ることが分かったためイノベーターの問題はない。

ここで問題なのがE L S、

これは無理、別に生き物を作れないわけではないけれどこれは無理、カオスだつて相手を吸収して成長したりしたけどE L Sとは違う。つまり異物、

そして女神はイレギュラーを排除したら3つ願いをかなえろと言った。

つまりこの世界にイレギュラーは存在する。

そして女神が言っていたイレギュラーは異物である可能性の高いE L Sの可能性がある。

E L Sがイレギュラーならガンダム〇〇に出てきたためこの世界にはすでにガンダム〇〇が混ざっていると考えればガンダム〇〇の知識の方もありと考えられますし、

可能性がある以上それ相応の用意をしておかないと、

・・・E L Sとかめんどろですな）

それにしてもアーミアは呟くと今度は知識の女神の事を考え始めた。

（・・・すこかったですね。

私は私以上を初めて見ました。

なんて言うんでしょう。

存在感？ いやそれは当然ですな女神ですし、

・・・そうトリップ前のお気に入りの作家の漫画風に言うなら絶対値が圧倒的に違う。

出来ればまた会いたいな）

「アーミア様」

「なんですか？」

アーミアは女神に思いをはせていると後ろから話しかけられたので返事をした。

「作業船と乗員の準備が出来ました」

「そうですかありがとうございます」

アーミアに話しかけてきたのは当然イノベイドだが他のイノベイドとは違う。

今アーミアに話しかけたイノベイドは名前をヘカテーと言い性別は女性。

地上に降りないイノベイドなら無性でいいのだがヘカテーはアーミアを補佐するためだけに作りだされたイノベイドでいうならアーミアの秘書のためいずれ地上に行くときもアーミア連れていくつもりなので性別を持たせた。

補佐をするためにだけに生み出されたがそのスペックは通常のイノベイドとは比べ物にならない。

もしもイノベイドの作製に一体いくらと値段をつけるなら桁が違うと言ってもいいだけの手間暇をかけ生み出されたのがヘカテーなのだ。

ついでにヘカテーのDNAパターンはアーミアものをベースにいじられたものだ。

「では作業船を発進させてください。」

その後ソレスタルビーイング号を元の月軌道へ」

「了解いたしました」

ヘカテーが返事をし作業に移るのを見るとアーミアも移動した。

「さてとヴェーダからの情報によれば私が指示して作らせた2つの

組織も動く準備が出来たみたいですし私も一度地上に降りないかね。
まあすぐに戻ることはないけど」

第二話 イノベイド改造終了。考察、（4月3日修正）（後書き）

イノベイターになるための素質云々が原作にあるかは知りません。ただデカルトはイノベイターになったのに一番近くにいた沙慈はならなかったのであるんじゃない？ と思い入れました。

第三話 国家／企業結成へ（前書き）

ぐだぐだです。

私は歴史に詳しくないので何年たったかなどはありません。

第三話 国家／企業結成へ

（あゝ、やっぱりいいですねアメは、
ここ最近忙しいから舐めてなかったですけど暇になるとむしろう
に舐めたくなるんですね。

アメは丸いのに限りますよね。
まあ棒付きも良いんですけど）

アーミアはアメを口の中できろころ転がしながらヴェーダからの
情報を眺めていた。

（医術結社アスクレピオス、武器販売組織ウルカヌス共に順調です
ね）

医術結社アスクレピオス、武器販売組織ウルカヌスはアーミアが
地上に作った組織で両組織ともに世界規模でかなりの知名度を誇っ
ている。

医術結社アスクレピオスはその時代では治せない病気などでも治
す組織として有名である。

理由は治せない病気などが蔓延すると時に無償で治したり国の有
力者に治療方法や予防方法を売りつけたり有力者が病にかかると治
療したから、

武器販売組織ウルカヌスは大砲や銃が出始めるとその国のものよ
りも性能の良い武器を売る組織である。

武器販売組織ウルカヌスは医術結社アスクレピオスよりも遅く活
動し始めたが今では同じくらい有名である。

とはいっても医術結社アスクレピオスは一般人も知っているが武

器販売組織ウルカヌスは地位があるものか軍である程度の地位のある以外は殆ど知らないが、

たまに都市伝説的に噂が流れたりするけど組織名がめちゃくちゃだったりする。

（まあたまに狙われたんですけどね）

両組織とも当然と言えば当然狙われるがそのたびに敵になったものを殲滅しているとそのうちどこも手を出さなくなった。

（ほんと色々噂が流れてるんですよ〜）

アーミアは新しいアメを口に入れると今度は別の情報を眺め始めた。

（そろそろアメリカとロシア、じゃなくてソ連の有力イノベイド一族を一部を除いたほか全てが合併して国であり企業でもある国を作ると宣言させてそれに他の国のイノベイド一族も少々と武器販売組織ウルカヌスと医術結社アスクレピオスも加わる形にしましょう。

色々と軍隊が来るでしょうけどそれを殲滅させたのち科学力が2、30年違うと発表すれば信じるでしょう。

まあ武器販売組織ウルカヌスと医術結社アスクレピオスが加わると発表すると攻めてこない可能性がありそうですけど現在ソ連とアメリカの上層部もイノベイドが多いですから絶対に軍を派遣させられま

すね。
悪いですけど軍の殲滅は色々と力を示すために必要なんですよ。企業の方も技術はこの国も欲しい上にちょうど今はどこも上層部はイノベイドが居ますから行けますね。
本当に色々とちょうどいいんですよ。

まあ2、30年進んできるとかはいきなり島が現れた時点で信じる

かもしれませんけど)

アーミアは今度はこの世界にトリップしてからすぐに作り始めている人工島のデータを見た。

(大気圏の突破はGN粒子とかで問題ないですね。
面積は100000km²?なんですよ。

ちなみに海中にも当然スペースがあるんですけどそこは将来的に極秘研究区間になる予定です。

もしも必要になったら地上で増築すればいいですね)

そこまで考えるとまたアーミアは別の情報を見てため息をついた。

(はゝまだOガンダムすら出来る見込みがない。

原作開始までにぎりぎり第四世代か第三世代ならいいなって感じですね)

余談だがアーミアはガンダムOOの知識を貰ったがそれは別にガンダムOOに出てくる機体の設計図など貰ったわけではなくあくまで元の世界で知れる情報だけなのだ。

まあ特典が多少付いていたりするので時間をかけ研究を重ねればガンダムを作れるのだが、

(さてと国が出来たら一つの一族をトップに据えないと、

一応王とかではなくトップは財閥とかっぱく総帥としましょう。

あゝ忙しい忙しい)

アーミアは別の作業をするために口にアメを入れると移動した。

第四話 シナプス（前書き）

ぐだぐだです。

第四話 シナプス

「遂に出来た私の国、私の世界が」

そう私が作りだした世界の中にありながら別の世界、かつて作りだした天空要塞よりも理想的な世界、

名前はかつて作り上げた天空要塞と同じシナプス、

え？ 出来るだけ三人称でやるんじゃないのかって？

出来るだけですよ出来るだけ、殆ど登場人物が1人で三人称はきつい者があります。

プロローグ入れて6話目なのに登場人物が6人って少なすぎますよね。

………はっ、私の脳量子波に何かが干渉を！？

………まあ気にしないようにしましょう。

さてと閑話休題と言うことで、

現在シナプスに住む人の99%以上つまりほぼ100%はイノベイドです。

まあこれは当然現在シナプスの住人は私の計画でやってきたイノベイド一族以外は私が生み出した一代目のイノベイドなのだから。

そもそも人間なんてイノベイド一族に居た少ない数だけだし、

ちなみにイノベイドを生み出して住人にした理由は住人がすくないから、

そうそうシナプスとはある魔術の学園都市みたいになって行く予定です。

ただより完璧に隔離されよりセキュリティが高いですけど、シナプスはレベルで管理がされています。

レベル管理は自身のレベル以上の建物には入れなくするもの、

とはいっても研究所ぐらいいにしかないと問題は無いですけど、まあ研究所が多いんですけどね。

まず一般人がレベル1、普通の研究者がレベル2、研究者の幹部や地位のある物がレベル3、レベル3から一部のものがレベル4、ソレスタルビーイング号やイノベイド達すら知らされるシナプストップクラスに位置する者がレベル5、そしてさらに厳選された者がレベル6、私がレベル7、

研究所はレベル3の一部から研究所は地下にあります。

そしてレベル3までは入ってもつかまりはするけどもまあそこまですで大変にはなりはしない。

まあこれはあくまでシナプスの住人はだけですけど、

ただレベル4は身の安全は保障せず生きていても死ぬまで嚴重な監視が付く、

レベル5からは拷問の末殺すか人体実験のモルモット、

しかもこれはあくまでシナプスの住人で他の人間ではこうもいかない。

レベル2でその者の国に多額の請求、レベル3の時点で拷問と人体実験のモルモットが決定する。

一応法で定められていますシナプスの住人でないものは自身のレベル以上の区画では人権は無いものとする、

またシナプスの住人でもスパイ行為をシナプスにした場合人権は剥奪されるともあります。

ちなみにシナプスの住人は特殊なナノマシンで壁の中に入る外の人間にはレベル1と認識される腕輪の着用で判断されます。

そうそうシナプスは食料も全てシナプス無いで賄えますし貿易しなくても問題ないんですけどした方が良いでしょうね外の人間と貿易するために壁を作ってその外側に港とか空港とか作ったり外の人間が中に入った時用の識別の腕輪を作ったりしたんですよ。

ちなみに観光などは行ってませんので入れるのは殆ど特別な地位のある人間とかぐらいでそれもめったにあることは無いでしょう。

まあ今は研究所だけだからですけど現在学校も始めようとしてますから大学とかが出来たりしてそこでも研究をおこなうようになると変更も考えないといけないんですけど、

そのうちなんか研究以外でも会社立ちあげる人とかでてくる間のはれませんか。

まあ居なかつたらイノベイド使つてやるだけなんですけど、

あと変化があつたのがイノベイドの出生率、

人間と交わりすぎたせいか20%落ちてた。

まあそれ以上落ちないみたいだし新しいイノベイドは関係ないし、そうそうイノベイドと人間の子で人間なのにイノベイドの血が濃いのか少し手お加えればイノベイドになれる人間が生まれ始めました。

「では、乾杯」

『乾杯！！』

私が言うのと周囲のイノベイドも同じく言った。

私は言うのと部屋を後にした。

私がいると騒ぎにくいでしょうからね。

現在宴会しているのは有力者のイノベイド一族で自身がイノベイドだと知っているイノベイド達、

まあ騒ぎたくなるでしょう100年以上も昔に私から命じられた使命を果たしたのですから、

「では私達も食べましょうかね」

「はい」

私は他の部屋でヘカテと食事をした。

ああおいしい。

あれですね。

100年以上続けた私の料理の腕はもうFateに出てくる赤い弓兵を超えましたね。

「あとはISが開発されるまではシナプスの内情ですね」
「そうですね」

そうそうシナプスが出来た当初アメリカとソ連が攻めてきましたけど全滅させました。

現在は良好な関係を作ろうと頑張ってます。

まあ元々はその国の有力な一族が居ますからコネはあるから何とかなりますね。

第四話 シナプス（後書き）

今日ISの第七巻を買いました。

しかし忙しく読んでません。

てか、そろそろ本格的にいそがしくなります。

ああもう一度高校一年をやりたい。

とはいっても留年はいやなんですけど、

まあそんなわけで忙しい+忙しくなるので転生版の投稿は5月下旬したら6月になります。

第五話 現状確認（4月10日修正）（前書き）

は脳量子波を利用した会話です。

第五話 現状確認（4月10日修正）

アーミアはアメを舐めながら現状を確認していた。

（シナプスはいいい感じになってきましたね）

現在シナプスは複数の学校や会社などが出来アーミアの望んだ形に進んでいる。

（うん。シナプスのセキュリティは完璧）

シナプスで大学など出来た際のレベル問題はレベルの中でも細かく分類することで解決した。

ついでだがレベルⅡヴェーダへのアクセス出来るレベルではない。まあシナプスの人間はヴェーダだと知らずにヴェーダを活用していたりするが、研究者たちでも普通は知らずにレベル2まででレベル5のものがレベル4か5、ヘカテーなど本当にごく一部のものがレベル6、アーミアのみがレベル7、まあアーミアはヴェーダを掌握しているのだが、

他にも選ばれたものはレベル3以上のアクセス権を与えられたりしている。

（そう言えば第一次は収穫があつたな）

アーミアは新しいアメを口に放り込むとそれを口の中で転がしながら別の状況の確認を始めた。

現在シナプスの外、つまり世界では第一次世界大戦が終わって少しばかり立った所だ。

シナプスにもどこぞの軍が来たがその軍は恐怖と言う言葉を知る時間すらなく世界から消滅したが、

アーミアのいう思わぬ収穫と言うのはシナプスに引き込んだすでに処刑されたニコライ二世の娘の事だ。

ニコライ二世の下の2人の娘が隔世遺伝型のイノベイドだったのだ。

隔世遺伝型イノベイドは祖先にイノベイドが起きるとかなり低い確率で生まれるイノベイドで人間の両親からイノベイドが生まれることだ。

これは祖先にイノベイドが多ければ多いほど確率が上がる。上がると言っても低下率で珍しいことに変わりはないが、

（ニコライ二世の二代前まではイノベイドが居たんですけどそいつの子から人間でしたいはずれ殺されるから放置しておいたんですけど儲けですね。

利用価値が出たら公表しましょう）

アーミアはまたアメを口に放り込むと今後の予定について考え始めた。

（第二次世界大戦じゃ1人勝ちでもしようかな）

アーミアは第一次は静観していたが第二次ではシナプスの影響力を増すため介入しようと考えていた。

（戦力は戦闘用量産型第一世代エンジェロイドで十分ですね。

あと第二次が終わったら娯楽にも目を向けましょうか、

シナプスじゃPSP並のゲームが出来始めてますけどもっと上の

を作れば楽しそうですし）

アーミアがそんなことを考えているとアーミアの脳量子波が受信した。

アーミア様ご報告があります
ヘカテーですかわかりました

アーミアは脳量子波を用いてのヘカテーと会話するとヘカテーの居る場所に向かった。

第五話 現状確認（4月10日修正）（後書き）

七巻を読みました。

あれですか？ 束はラスボスか何かですか？

それともただ単にやりたいことをやってるだけですか？

……こっちのほうが可能性がありそうですね。

まあ束が敵サイドでもこの作品は束とは手を組まずどちらかというとアンチだったんでいいんですけど転生版は主人公側に入れるつもりだったんですね。

はあどうしよ。修正箇所が増えた。

最後にどうでもいいですけどISで私の好きなキャラトップ5は楯無、本音、束、簪、千冬の順です。

第六話 いろいろ完成まじか（前書き）

ぐだぐだです。

第六話 いろいろ完成まじか

時は第二次世界大戦終了後少ししてシナプスは全世界に対して宣戦布告をした。

シナプスが欲したのは権利、どこからも干渉されない権利と干渉する権利などそれ以外は一切いらぬ。降伏した国には一切手を出さぬと宣言した。

そして世界にとって予想外だったのだがシナプスの宣戦布告の一時間後にアメリカとロシアが何もせず全面降伏宣言、

アメリカとロシア、世界で最もシナプスとつながりがある国、そのためアメリカとロシアの上層部はシナプスに招かれたことがある。

それを見た上層部はアメリカ、ロシア共に決してシナプスとは争わないことを誓った。

もっとも降伏したのはシナプスが欲している権限以上のものを欲しないと確信があつたためだが、

シナプスは企業として支部を他国に立てることはあつても国の領土を広げたりなどは増築して広げるならともかくそれが以外ではシナプスにはマイナスしかないのだ。

ちなみにシナプスの技術をみた上層部の人間は後にこう言つたそう。シナプスと戦うぐらいなら素手で戦車と戦つた方が比べ物にならないほどまし、と、

しかし他の国はそんなことをしなかつたため戦争になつた。だがそれもすぐに終わった。

シナプスは世界から見せしめとなる国をピックアップするとその国に戦闘エンジニアを各国に1体派遣、それだけでその国がエンジニアに差し向けた軍隊を消し去つた。

そのあまりの戦闘力にピックアップされてしまった国はもちろんそれ以外の国も降伏、それにはアメリカ、ロシアがシナプスが欲し

ている権利を認めた以外とくに何もされなかったからというのもあるが、

ちなみにこの戦争戦闘は僅か1日で終わり降伏はその2日後には全て決定されていた。

どうでもいい余談だがエンジェロイドは羽が生えた人サイズの人型でありぱつと見天使に見えシナプス自体もいきなり現れたため不思議とされていたこともあってどこぞの宗教団体が神の使いがとか神がとか内部で騒いだりしたとか、

「ふふふ圧倒的ないですか我が軍勢は」

アーミアは己の欲した権利が全て認められ上機嫌だが別の情報を見るといきなり不機嫌になり舐めていたアメを噛み砕いた。

「まさか私がこんな粗悪品のエンジェロイドを作るはめになるとはね」

各国に派遣されたエンジェロイドは第一世代ではない。

ましてやそれ以上でもない。

第0・1世代、他者から見ればすばらしい性能でもエンジェロイドの開発者であり親でもあるアーミアからすれば粗悪品なのだ。

なぜアーミアは粗悪品を作り出したかと言うとそれが今現在では限度だったのだ。

ソレスタルビーニング号には不思議機関をはじめガンダムやGNドライブから宇宙船まで様々なものを作る工場のような区画があるがそこではエンジェロイドは作れない。

それどころかエンジェロイドのパーツすら作れないのだ。

元々エンジェロイドはアーミアが10年近くかけ作りだした。

その上アーミアが居なければエンジェロイドは作りだされなかったであろうが元居た世界には下地の下地のそのまた下地ぐらいにはなる技術があつたのだ。

つまり技術の進化の方向が微妙に違うのだ。

そのため今現在エンジェロイドは性能は低く感情も一切ないところか思考も最低限の代物なのだ。

（これも元のレベルの第一世代は原作前が限度、ELSが来るとすれば来る前に第三世代が出来れば楽が出来るんですけどね）

「ま、エンジェロイドは予定よりも大幅に遅れまくってるけどガンダムは君のおかげで早まりました。

感謝してますよイオリア」

アーミアは後ろに居る男に話しかけた。

男の名はイオリア・シュヘンベルグ見た目はガンダム00の劇場版で出てきた若いイオリアだ。

ちなみにアーミアがイオリアを見つけた時思わず飲んでいたジュースを噴き出し5秒ほどパニック状態になったりした。

「私は出来ることをしただけだ」

「それでも君のおかげでOガンダムはロールアウトまじかですからね。

君は表裏問わずシナプスの歴史に名を残したよ」

「興味が無いな」

「そう」

イオリア・シュヘンベルグは元々シナプスの人間ではない。

偶々見つけて気になったため調べたらかなり優秀な人間だったた

めシナプスに引きこまれたのだ。

それはシナプス初、

これによって表ではシナプス初の外からスカウトされシナプスに入った人間となったのだ。

しかも幹部、

裏では初の外から人間で初のレベル6そしてヴェーダへのアクセス権もレベル6なのだ。

「じゃあOガンダムもあとはハ口と作業用イノベイドで問題ないからシナプスに戻るうか」

アーミアは言うつと能力で量子ゲートを作り出しイオリアと共にシナプスに戻った。

「ヘカテー被検体の状況は？」

「失敗です。」

やはりイノベイドの血が濃くイノベイドへなる資質のある者、名称イノベイド因子持ち以外のイノベイドかは難しいようです」

「ふん。まあ分かった結果だしね。」

引き続き実験を」

「はい。」

所でこれ以上結果の見込めない被検体はどうしますか？」

「確か新薬を開発中の場所が会ったからそのモルモットとして配属しておいた」

「了解しました」

アーミアはそう言うところとガラスの向こう側で実験を受けている女性をゴミを見る目で見ていた。

シナプスは貿易もしている。

シナプスが出すのは主に技術だが他の国からは特産品とかを輸入していたりする。

そう言うのにまぎれてシナプスを探ろうとするものが居るのだが全て見つかり大抵はモルモットにされ死んでいく、

（まあ本音を言えばもう少しモルモットが欲しいんですけど世界がもう少し安定すればスカウトも始めますからそうすればそれにまぎれて増えますね）

ちなみにそのモルモットの中には他国の使者としてきたものも居たのだがシナプスは迷わずモルモット行きを決定した。

シナプスの秘密区画に侵入しようとした時点で他国の人間は人ではなく物になるのだから、

「ま、そんなことよりも明日は動力を追加するからそっちの方を優先しよう」

「そう言えば出来あがってましたね」

「ん、明日にはソレスタルビーイング号に届くからね」

シナプスの国土である人工島は何気に機能が多数ありやろうと思えば宙に浮かびさらに宇宙空間を移動も可能なのだ。

もっとも宇宙空間の移動は動力が足りず現在はできないが、その動力は現在劣化大型可変ウィングの核のみだ。

可変ウィングの核、アーミアが作りだした究極の動力機関、

しかしそれはエンジェロイドと同じく作り上げることが出来なかったため性能が本来のものよりも僅かにお取りサイズもすさまじく違う。

そしてこれと共にシナプスの動力となるものが完成したのだ。

それは大型GNドライブ、

ガンダムと違いGNドライブは元があつたため技術が進み小型化も進んでいる。しかし大型GNドライブは会えて大きくしその分量子生産量を増加させたのだ。それは通常のもの約10倍以上、

さらにそれをツインドライブシステムで二乗化させることになる。

2つの大型GNドライブを搭載しツインシステムで同調させ二乗化させることでシナプスは宇宙空間でも行動できるようになる。

そしてシナプスの防衛機能も完璧になる。

もしも時がたちISが出来467機のISが全て第四世代で搭乗者が織斑 千冬クラスでそれが一斉にシナプスに襲撃してきててもシナプスの被害は大きく見積もっても1割あるかないかと言った所となるだろう。

「これでシナプスは真の意味で完璧になる。

あとはより進化させるだけですな」

アーミアは上機嫌に口の中にアメを放り込んだ。

第六話 いろいろ完成まじか（後書き）

緋弾のアリアってホームズとワトソンの子孫は出てきてるのにモリアーティの子孫は出てきませんよね。

なんででしょうか？

私がここ最近読んでないから忘れただけで出てきてましたっけ？

私がホームズよりモリアーティのほうが好きです。

第七話 原作考察

「金星もなかなかですね」

現在アーミアはソレスタルビーイング号で金星付近に来ている。
シナプスは金星と火星を手に入れた。

本来は木星と月も手に入れようと思えばできたのだが月はシナプス以外の宇宙進出のために取っておくことにして木星はもしもELSがイレギュラーで現れるなら木星を手に入れているよりいいれない方が良くと判断したためだ。

（ELSが来たらインフィニット・ストラトスは無力、

サイズ状の問題で火力が足りなすぎ、絶対防御もELSの浸食の前じゃ無意味なのはIS型GNドライブで確認済みその所をシナプスが解決する代わりに多大な利権を手に入れる。

うん。完璧木星はその後その一部として手に入ればいいし、ELSが来る前に持つてると全て責任取らさねかないしね。

まあELSが居ないなら居ないで良いんだけどそれだと木星を手に入れるのが面倒になるんですよね。

けど一応居るってことで考えておかないとね。

ELSは今のところ殲滅の方向ですね。

そのためにはやっぱり第三世代のエンジェロイドが居るな。

久しぶりにインフィニット・ストラトスの事を考えたことだし原作知識について整理しておきますか）

そう思いアーミアはインフィニット・ストラトスの物語について
思考し始めた。

（私が読んだのは1巻のみ2巻目は読まなかった。

だって私のエンジェロイドの方がSFっぽくて強いんだもん。

そう言えば戦争で本作ってなんかいられないとかになる前にSF系はリアルでシナプスが作れそうってことで一気に数が減っていましたね。

……話がずれましたね。閑話休題。

つまり私の知識は大まかに原作1巻目と――）

アーミアは目の前に画面をだし操作しヴェーダからあるデータを呼び出した。

（――このヴェーダに入っていた私が転生前に集めた人間の脳内情報、これにインフィニット・ストラトスの作者のものも入っていました。

それからの情報でどうやら3巻発売は殆どできる状況ではあったようではぼ3巻までの知識、

他に使えるような知識はIS学園の無人ISによる襲撃事件の犯人は篠ノ之 東、後に生徒会長登場、学園祭、生徒会長Ⅱ学園最強、生徒会長裏の人間+名家、織斑 千冬似の人間が亡国企業にいる。もう1人IS学園の生徒で専用機持ちだす。

まあ人の脳内情報を得るのは試作段階の技術でしたから破損もありましたし使えて確定している情報はこのぐらいですね。

亡国企業と篠ノ之 東は放置しておきましょう目ざわりになりすぎたら消せばいいですし、

……それにしてもイギリス、中国、フランス、ドイツ、どこも代表候補生が織斑 一夏に惚れるんですよね。

物語と言えばそこまででもそもそISを動かせる男子は織斑 一夏だけだから好意を寄せられるのは人柄と顔が酷くなければ当然と言えば当然、

しかし篠ノ之 篁、セシリア・オルコット、凰 鈴音、シャルロット・デュノア、ラウラ・ボーデヴィツヒはその他とは度合いが違うと言える。

まあこれもヒロインとモブの違いと言えばそれまでですけど、
・・・・・篠ノ之 篁は別としても全員が専用機持ち、つまりIS適性が高く才能がある。

この調子じゃ生徒会長ともう一人も織斑 一夏に惚れそうですね。まあどうでもいいですけど、

それにしてもこれを物語と片付けるか因果関係を見出すか、
そもそも織斑 一夏は篠ノ之 束の手によって乗れるようになったのかそうでないのか、

・・・・・どうでもいいですね。所詮ISですし、
あれって絶対防御とか邪魔ですよ。シールドバリアーはまだ使えますけど、使用されるとシールドエネルギーが極端に消耗されま
すし、

ぶっちゃけそんな能力が会っても戦争じゃ無意味ですよ。

だって絶対防御が発動できなくなるまで攻撃すればいいんですから、
あと第二形態移行とかの機能もいらない。機体が進化するという
技術は評価できますけど望んだ方向とは限らないため戦闘方法を変
える必要が出たりしますからね。第一すぐに性能などを把握できる
わけでもないですし、

うん。私のカオスには及ばない。カオスは「Pandora」と
言う進化する機関を積んでますけどカオス自身が進化するんで進化
した時点で全て理解しており進化の方向もカオスがだまかに決めら
れますからね。

だから私、IS型GNドライブは3つの機能を1個を除いて外し
ちゃったんですよ。

その分の領域を他に回せますから性能が上がりましたよ。

・・・・・そう言えばシャルロット・デュノアは男の振りをし
てIS学園に入ってきてましたね。

3年間でとか言っていましたけど普通に無理ですよ。まあ織斑一夏と違って大々的に取り上げられてなかったのが救いですけどね。原作だと亡国企業を織斑一夏達と壊滅させたりしてその功績でどうにかなりそうですけど、

それにしても父親はなにを考えていたんでしょうね。男装なんかすぐにばれるでしょう身体検査とかで、

たとえ唯一の男の操縦者の機体情報とかが手に入ってもばれたら後々面倒になることぐらいわかるでしょうに、

無能なんですかね？

一応原作ではフランス1のIS会社のトップらしいのに、

そもそも男装させて近づけるぐらいなら女子として入学させて織斑一夏に近づかせて媚薬でも盛ってやることやらせて精子を摂取させればいいのに、

ISの情報が無くても、たとえ織斑一夏自身が特別なのではなく篠ノ之束の手によって乗れているんだとしてもそれを世界が知らない以上織斑一夏の精子には価値があるでしょうに、

IS情報は無理でも金は大量に手に入りますね。

まあこれはシャルロット・デュノアが拒否しそうですけどやらせる方法などいくらでもあるでしょうに、

ついでにシャルロット・デュノアが子を孕めばそれを理由に織斑一夏を引き込めるでしょうに、

……かなり思考がずれてましたね。閑話休題。

とりあえずシャルロット・デュノアには利用価値がありますね。

IS学園に入ったら情報をアメリカとロシアに流して調査するよう誘導して男と分かったらフランスとデュノア社にそのことを追求させる。

IS学園に干渉できない以上3年後しかシャルロット・デュノアの身柄を引き渡せことも出来ないからその分アメリカとロシアは色々と手に入れられるでしょう。

アメリカとロシアはシナプスと最も繋がりがありシナプスの影響

下にある国ですからね。

まあシナプス結成時集まったイノベイドのほとんどがその2カ国で影響力のあったイノベイドで後はおまけ程度で他の国に影響力のあるイノベイドでしたから当然なんですからね。

いや、原作登場人物なんて基本もうどうでもよかったんですけど利用価値があるのがいましたね。

ま、原作通りデュノア社とシャルロット・デュノアが出来ればですけど、

イノベイドばらまきましたしシナプスがありますからね。

最悪篠ノ之 束が生まれなくて物語が始まらない可能性がりますからね。

そこは修正力とかご都合主義とかを期待しましょう

「アーミア様」

アーミアがインフィニット・ストラトスの原作について思考していたのに何やら黒いことか思考が移っているとヘカテが現れアーミアに話しかけた。

「なんです？」

「イデオが面会を求めています」

「イデオが？ 珍しいですね。」

わかりました会いに行きましょう」

アーミアは返事をするといデオと会うために移動した。

第八話 原作との縁

現在アーミアはソレスタルビーイング号の一室に居る。

場所はあれだ。ガンダム〇〇でリボンズらイノベイドがよくいた場所だ。

部屋の作りがちょうどよかったのでアーミアは人と会う際などによく使う。

アーミアはソファアに座りながら眼の前の男が異常に緊張していることに疑問を感じていた。

(……イノベイドは潜伏型でイノベイドの自覚が無い者と言った感情が無い作業用とヘカター以外は私を前にと緊張したり恐縮したりしますけど今は異常ですね。

何か大変なミスをした？

いえ、それならヴェーダから報告が来るはずです。

それにイデオは次期スキエンティア家当主なんですし早々ここまで緊張するほどのミスを犯すとは考えにくい。

そもそもイデオはつい最近まで今後の為に秘密裏に日本の大学に留学していたはず)

スキエンティア家、スキエンティア家とは簡単に言えばシナプスの王族のようなものだ。

そして現在アーミアの前で跪いている男はイデオ・S・スキエンティア、スキエンティア家次期当主にしてアーミアの祖父になる予定の男だ。

「それで用件はなんです？」

「はっ、

……実は結婚したい相手がいるのです」

「は？」

（え？　なんでそんな話に？）

「なぜそんな話になったのかそして誰か詳しく話さない」

「分かりました」

イデオの話を簡単にまとめるところだ。

イデオはアーミアの予定では日本の名家のイノベイドを覚醒させてそのものと婚約させる予定で会ったため日本に留学をした。

もっとも留学を知ってるのはシナプスの上層部の一部と日本政府の一部だけだ。

ただし日本側はシナプスの人間を留学させるからシナプスの勢力を日本圏内に入れさせると言われただけで誰がシナプスの人間かは知らされていないが、

そして秘密裏に留学した日本の大学で1人の女性と出会い恋に落ちた。

なおイデオはロシアからの留学生となっている。

ついでに現在はロシアに一時的に返ったことにしていて遠距離恋愛中だとか、

（秘密裏に留学した男がその国の女性と恋に落ちたどこの小説ですか？）

イデオの話を聞いたアーミアはそんなことを思い顔をゆがめると

拒否されると思ったのかイデオはあわてたように言った。

「それにシナプスにも利があります」

「利、何です？」

「彼女は更識家の人間です」

「・・・・・・更識家、確か対暗部用暗部でロシアの対暗部用暗部アスピツァ家ともつながりがありましたね。」

相手の名前は更識 華蓮ですね」

「はい」

アーミアは聞くと同時にヴェーダから情報を引き出した。

（更識家ですか、

日本のイノベイドの名家より表では劣りますが裏では優ってますね。

まあシナプス結成以降は一部を除いたイノベイド全て潜伏状態にしていますから仕方がないですね。

兄は15代目楯無、更識家を継ぐ可能性は低いですが繋がりを持てますね。

ただイノベイドじゃないですからシナプスに招くのが面倒ですね）
「分かりました。」

更識 華蓮に話し本人がシナプスに来ることを了承しシナプスの検査をクリアした場合のみ認めましょう」

「ありがとうございます！」

そう返事をするといデオはアーミアの作った量子ゲートを通りシナプスに帰って行った。

「それにしてもまさかイノベイドが地蟲ダウナーと恋に落ちるとはね」

「アーミア様」

「おっと、つい癖がすいませんね」

アーミアは地蟲ダウナーと言ったのをヘカテーに注意されると謝った。
地蟲ダウナー、トリップ前にアーミアが自分にとってどうでもいい人間に
対して行っていた言葉だが両親と妹に注意され言わなくなっていた
言葉だがトリップ後最近になってシナプスの外の人間に対して言う
ようになりヘカテーに気づいたら注意するように頼んでいるのだ。

「アーミア様ゲミニーシステムが試作段階に入りました」

それを聞くとアーミアは口元を釣り上げ笑みを浮かべた。

「それは上々見ることはできますか」

「はい」

「では行きましょう」

言つとアーミアとヘカテーは部屋を後にした。

「なかなかの出来ですね」

アーミアは現在MSのシミュレーターに乗っているイノベイドを
見ながら呟いた。

「はい。」

ですがまだ改良の余地があります」

「確かにしかしセーミックの代わりは作れませんからね」

ゲミニーシステム、ゲミニーシステムとはある機械によりパイロットの完璧な補佐などをするシステムの事を言う。

その機械をセーミックと呼ぶ、セーミックは完全に機械ではない。機械と人間の、現時点ではイノベイドだけのため正確にはイノベイドの脳でできているのだ。

セーミックはイノベイドを作った時点で脳だけもう一つ作り常にリンクさせる。

後は機械で調整も行い完全に同じ状態を維持し続ける。

それによつて機体に搭載すれば機体を動かす際に八口やヴェーダなどで補助してりするよりも的確な補助がされかつ思考と反射の融合を疑似的に行うことが出来るのだ。

なぜなら自分と同じ思考をし反射をするのだから、

ただし生まれた時からセーミックを作らなければならないのでセーミックの代わりは作れず（脳分が作れないだけのため脳を新しい機械部への替えはできる）ヘカテーはもちろんアーミアもセーミックを持っていない。

最もアーミアはそんなことをしなくとも一人でガンダムサバーニヤクラスでも十全に扱える上にELSを使い疑似的に思考と反射の融合もやろうと思えばでき、

ヘカテーにしてもそのスペックがあらゆるイノベイドを凌駕していて戦闘用イノベイドでもゲミニーシステムを使いようやく互角か僅かに劣るかといった程なのだが、

「ガンダムの方も進めておかないといけませんね」

「はい」

「クアンタムシステムはどうですか？」

「やはりまだ無理です」

「そうですね、」

ま、しょうがないですね。

やはりE L Sはイノベイドと違い邪魔になりかねませんからクアンタムシステムが出来てエンジェロイドの電子戦装備との融合が可能でE L Sに聞くと確信が持てない限りはやはり全滅させるしかないですね」

アーミアはE L Sと対話し成功したとしても不確定要素すぎるので殲滅させることを半ば決定にしていたのだがふとクアンタムシステムのクアンタムバーストかトランザムバーストで（できればクアンタムシステム）意識を繋げ、電子戦用エンジェロイドに搭載した人の脳へすら侵入可能の電子戦装備を強化し繋がっている状態を利用し一斉にハッキングして支配できないかと考えたのだ。

これの問題は現時点でクアンタムシステムの開発すら始めることが出来ておらず、

さらにエンジェロイドの電子戦装備を作り出す必要がある、

またE L Sにそれが聞かなければ意味が無いのだが、

「やはり殲滅がベストですかね」

「はい」

アーミアはそんなことを呟くと口にアメを放り込みゲミニーシステムとセーミックのさらなる改良方法を模索した。

第八話 原作との縁（後書き）

ふと思いついて没になったネタ。

織斑夫妻（千冬と一夏の両親）は科学者、主に人体と遺伝子系、

千冬は最強の人間の試作で一夏が完成形で一夏が昔の記憶が少し曖昧（確かこんな設定があったはず）なのは両親が最終調整を行ってその記憶を消したから、マドカは完成形の失敗作で資金を得るために亡国企業に渡された。

第九話 考察

アーミアはソレスタルビーイング号で最近できた第2世代のGN Y-001 ガンダムアストレアと第1世代のGN-000 Oガンダムを眺めさらに第3世代の設計をしながら昔のイデオの問題について思い出していた。

（思ったよりすんなり決まりましたね）

イデオの問題はすんなり解決した。

イデオの恋人である更識 華蓮はシナプスに来るとすぐに言い。日本政府と更識家もシナプスと繋がりが出来るなら大歓迎だったので問題なく、

更識 華蓮がシナプスの検査もクリアしたため本当にすんなり終わった。

ちなみにシナプスの検査とは更識 華蓮の脳をハッキングしスパイとして動くつもりかどうかなどを調べるなど、

余談だがエンジェロイドの電子戦装備の機能の内の1つの人の脳にハッキングするものはアーミアが使用することがありそうと思っただため大がかりな装置となっているがすでに存在している。

もっとも更識 華蓮はイノベイドではなく外出身だったのでヴェーダへのアクセツ権レベルも高いわけではなくアーミアのこともソレスタルビーイング号など裏のことも知らないが、

どうでもいいことだがイデオは更識 華蓮と結婚したのち25歳と言う若さでスキエンティア当主にしてシナプス総帥になった。

当主と総帥の継承は親が何歳で子が何歳で有ろうと子が親より優

秀だと証明された場合何歳であろうと当主になるのだ。

逆に言えば子が無能なら親から子を挟まないで孫が当主になる可能性も会ったりする。

（子供も問題有りませんでしたし）

アーミアはイデオと華蓮の間に生まれた子供を思い出した。

その子供は問題なくイノベイドだった。

その子供はアーミアの父親になる予定だったのでイノベイドで無いと色々と不便だったのだ。

（まあ人間でもイノベイド因子が会ったでしょうし無かったらイデオにもう一人イノベイドの妻を娶らせて子供を作らせればよかったんですけど、まあ華蓮が人間だからそれはきついかもしれないですね）

シナプスは一夫多妻だろうが多夫一妻だろうが結婚する人間全てが納得していれば自由だ。

もっともそれを申請した者はシナプスの歴史でも数組しかいないが、

ついでにシナプスでは人種差別、性別差別は禁止されている。

これはイノベイドを発表した場合と人間と変わらない感情のあるエンジニアロイドが出来た際にシナプスの住人にするための処置だったりする。

人種：イノベイド、人種：エンジニアロイド、

……無理があるかもしれないが、

「一応これでエクシアの設計図が出来ましたね。

あとはこれにゲミニーシステムを搭載できるよう調整を、

……いえそれは第3世代が完成してからでいいですね」

そう呟くとアーミアは口に普段舐めているアメではなく日本から取り寄せた和菓子を食べるとお茶を飲みながら今後と現在のシナプスの状況について考え始めた。

（現在シナプスは外では2、30年科学力の進んだ国だと思われる。
いる。

これは予定通りでシナプスは外には主に外の製品より僅かでありながらも確実に上の商品を作り販売していて一部数年先の電気製品などを販売している。

工場はシナプスのそばに作った人工島で工場島と呼ばれる場所以外には主に5大支部のアメリカ支部、ロシア支部、ヨーロッパ支部、アジア支部、日本支部が僅かに上から数年先まで作り他の場所では僅か先まで作っている。

けどな〜)

「ヴェーダ、君の予想は」

アーミアが呟くとヴェーダの計算した予報情報が目の前に現れた。

「だよね〜。足りなくなりますよね」

アーミアはヴェーダの出した予報と自分の出したものが一致しているのを見て呟いた。

アーミアが言った足りなくなるは工場がだ。

別に足りなくなると言ったことはないのだがより利益を求めると足りなくなると言うだけ、

5大支部はかなりの広さを誇りそれは日本では1つの県と同じになりそうなくらいなのだが他はそうでもない普通の大きな工場なのだ。

ちなみに5大支部はシナプスが戦争で獲得した権利で他国の中に

ありながらシナプスの領土なので侵入者などは普通にシナプスの法で捕縛されシナプス本国に送られ人体実験が待っていたりする。

ちなみにこの権利の正式な内容はシナプスは他国に自国の領地を保有できる。とシナプスは他国から他国の領土を買い取り自国の領土と化すことが出来る、だ。

そのためシナプスに借金をしすぎるとシナプスは返済を求めそれを拒否された場合強権を使い借金をチャラにする代わりにその国の国土を奪ったりなどをやろうと思えば出来たりする。

最も5大支部は勝ったのでなく戦争の戦利品だが、

余談だが僅かに上の技術に関してはシナプスの国民しか扱って居ない。

さら余談だがあらゆる国家は住民がシナプスへの移住を望みシナプスが承諾した場合その者を自国の人間でなくシナプス国民であると認めなければならぬという決まりもある。

正確にはシナプスはあらゆる人間をそのものが望んだ場合その者の国籍を抹消しシナプスに変える権利を保有するだ。

「ふむ、どうでしょうか、

・・・シャルロット・デュノアの時にシナプスも動いて世界をだまそうとしたフランス政府を信用することが出来ないためと言う名目で賠償+借金返済を要求して国土を奪いましょうかね。

情報操作して民衆の怨みは愚かなフランス政府とデュノア社とシャルロット・デュノアに集めましょう。情報操作など私とヴェーダがシナプスにある以上たやすいですし」

ちなみにシナプスに国土を奪われた場合その地に住んでいた人たちは当然その場を追い出され3カ月以内に撤退しない場合はシナプスは不法侵入者として扱うのだからその地に住む人たちからしたらたまったものではない。

もっともアーミアはその人たちがどうなろうと気にしないが面倒

はごめんなのでその権利で国土を奪い取ったことは今のところ一度もない。必要もなかったし、

逆に言えば面倒をある程度押しつける相手がいて面倒が減ればやるのだが、

（まあそんなことになるフランスが国として機能するかどうか疑わしくなるからフランスの海域内に人工島をつくって貰うはずだった地を表むきは貸し出すことにしてう裏でフランスを傀儡にするのもありですね）

「まあこれはもう少し経ってから決めればいいか、

あとは戦闘型イノベイド自体の強化もしょうかな、

第三世代は原作前にできそうだけど第四世代はきついかなく、てかELSはいつ来るんだろ、

来るある程度前の状態で作れる最新のMSも量産しないといけないし、

そもそもELSが居るかどうかだけでもハッキリしたいな」

外宇宙に行ける衛星でも作って探してみましようか？ と呟きながらアーミアはアメを口に入れるとイノベイド製造室に向かった。

第十話 蘇る疑問

「は」

シナプスの中心部に存在するシナプスの中枢ソレスタルタワーでアーミアはため息をついた。

「いかなさいました？」

「ああ、ヘカテー、

いえ華蓮を入れたのは失敗かもしれませんが」

「・・・・・・特に問題ないと思われませんが？」

アーミアの言葉にヘカテーは自分の意見をいった。

「ええ、確かに問題ないと言えば問題はありません。

本来8歳で覚醒させる所を15程度までまたないといけないだけです。

しかしこの状況は」

アーミアは言いながら画面をみた。

そこには現在日本に行っている華蓮の息子が同い年ぐらいの子供と遊んでいる映像が映し出されている。

「ええ、別にこの子はイノベイトです。

必要な時に覚醒させてヴェーダから知識を与えればその瞬間天才の誕生になります。

だから遊んでいても問題ありません。
問題は私もこの状態になる可能性があると言つことです」

アーミアがため息をついた理由は近い将来華蓮の手によって同年代の子と遊ばされる可能性のためだ。

「ま、良いでしょう。」

それよりも原作の始まりも見えてきましたね」

「はい。」

主人公たちの親は誕生しているはずです」

どうでもいい話だがアーミアが原作の開始などの目準にしているのは織斑ではなく篠ノ之だ。

これは当然といつても良いだろう。

主人公の両親などの情報は殆どないが篠ノ之は神社、道場と情報がありさらに織斑よりも少ない苗字のため見つけやすかったのだ。

「新しいイノベイド強化案も出ましたし、

ガンダムの方も最近頭角を現してきたエイフマンが期待できそうですし」

エイフマン、フルネームはレイフ・エイフマン。この人物は現在10代後半の若き天才。

そして年をとればガンダム00のレイフ・エイフマンそっくりになるのではないかとアーミアとヴェーダが予測する人物だ。

（本当にこの世界はどうなってるんです？）

アーミアはそう思ったが優秀ならまあいいやと思いつけるのをやめた。

もしもこの世界がガンダム〇〇クロスの世界だったとしてもヴェーダを掌握しており、そもそもイオリアがGNドライブもソレスタルビーイングも太陽光発電の理論も作らなかった時点でガンダム〇〇要素は消えたといってもいいのだから、

「エンジェロイドもようやく量産型の第一世代は製造可能になりました。」

殲滅型は可変ウイングのコアがまだかかりますけど電子戦型はもう少し接近戦型も同じく、

うん、本当にいい感じですね」

アーミアは満足げにうなずくと口にアメを放り込んだ。

キャラ設定

【名前】

ヘカテー

【容姿】

灼眼のシャナのヘカテーとシークレットゲーム CODE:Re
viseの瞳を合わせた感じ(6:3で残りの1割はアーミア)

【備考】

アーミアが作りだしたイノベイドで他のイノベイドとは比べ物にならないほどの手間暇と費用をかけて生み出された。

そのため生み出されて400年以上たった今でも最高のイノベイド、

アーミアの補佐、サポートの為に生み出されそれを自身の意思でも喜びとしている。

あらゆる物事でアーミアに次ぐ権限を持っているため実質上シナプスのナンバー2、

また塩基配列パターンはアーミアのものを元になっている。

第十一話 祝アーミア誕生、再び蘇る疑問

アーミアはソレスタルビーイング号の中で呟いた。

「祝、私誕生」

時は経ちアーミアが生まれる時（書類上）やってきた。

しかし予定よりも1年早くなっている。理由はアーミアの母となるはずの女性が普通に身籠ったから、

そのため双子とすることにしたのだ。

もともとアーミアは自身の肉体年齢である4、5歳までは表に出ず特殊な病気の治療中となることになっている。

（は、祖母が居なければ後は全員イノベイドだったので楽しかったんですけど）

アーミアはため息をつくとき口にアメを放り込みと現在の思考を破棄して目の前のデータに関して思考し始めた。

（これが新しいプラン、

ふむ、同じコストで反射神経が3%上昇しています。やはり有能ですね。スカリエッティは）

スカリエッティとは本名ジェイル・スカリエッティ、元ロシアの科学者だ。

若くして名門大学をスキップでかつ首席で卒業した天才として将

来が期待されていたが違法実験を行ったため指名手配されていたところをヴェーダからの報告でアーミアが知り調べたところかなり有能だったためシナプスに行き入れたのだ。

なお容姿はリリカルなのはジェイル・スカリエッティ似なのでアーミアがヴェーダの報告を切った際は飲んでいた飲み物を嘔き出してしまったらしい。

なお犯罪者のため体内に特殊な監視用ナノマシンが仕込まれておりアーミア、ヘカテ、ヴェーダはいつでも殺すことが出来常に監視もされていてナノマシンも少しでもいじろうとするとジェイル・スカリエッティを殺すが本人はナノマシンが仕込まれているようにイノベイド開発などの仕事に満足しており充実した生活を送っている。ちなみにロシアとはシナプスが取引を行いすでに犯罪者では無くなっている。

余談だがスカリエッティがシナプスにスカウトされた際にたった一つだけ条件を出しておりその内容が故郷の幼馴染が了承してくれたら連れて行きたいと言うものだったのでOKをしたらその人物がリリカルなのはウーノ似のウーノという女性でアーミアがこの世界は本当にどうなってるんです？ と頭を抱えたのはこれまた余談である。

なおジェイルとウーノは結婚しておりスカリエッティ家には現在4人の子供がおり現在もウーノは妊娠中、アーミアは子供の名前を聞いて子供は11人になりますねと言っていたりする。

「ではこの新しいデータを踏まえて始めましょうか、ヘカテ計画を」

ヘカテ計画、現在でも最高のスペックを誇るヘカテを意識のみヴェーダに一時的に移植しその後新しく作った肉体に移す計画である。

なお新しい肉体はヘカテの肉体を作った時と同じく他のイノベ

イドとは比べ物にならない手間暇と資金が使われる予定である。

具体的にはアーミアが表舞台に立つまでの4年間をかける予定である。

余談だがアーミアがこれほど時間をかけるのはヘカテーがイノベイドで唯一アーミアの大切に加わっているからである。

「では私はあなたの新しい肉体を作るのに専念するのでその間はあなたの裁量でシナプスを動かしてください」
「わかりました」

アーミアの言葉に後ろに控えていたヘカテーは返事をした。

「さてと、あと少しで原作主人公が生まれますから物語ももうすぐですね。

けどやっぱり私とシナプス以外が世界規模で物事を動かすのは気にいらないう」

アーミアは新しいアメを口に入れると新しいヘカテーの体を作るべく動きだした。

第十一話 祝アーミア誕生、再び蘇る疑問（後書き）

次か次の次ぐらいで原作キャラが初登場します。たぶん、

第十二話 祝へカテー再誕

「宇宙は良いですね。」

それにしても重力は宇宙に上がるとわずらわしいものから解放され
たすばらしさを感じるのに地上に戻ると重力はすばらしいと感じる
のはなぜでしょう?」

そんなことを呟きながらアーミアはアメを口に放り込んだ。
アーミアがいるのは金星、

しかしそれはシナプスが正式に金星を獲得する以前から好き勝手
研究所を建てたりしているのでもはや金星だったもの、金星のよう
な何かと言った物になっている。

なお火星は殆ど手付かずだったりする。

理由はE L Sがいるとすると地球より木星に近い火星は何か作っ
てれば被害を受けるからという理由だったりする。

アーミアが金星に来たのは物資を受け取るためだ。

ソレスタルビーイング号には神作製の不思議機関で物資が生まれ
てくるのだがそれでも無限ではないので（無限ではないが多い）多
く使えば補給が必要になるのだ。

それともう一つ、金星で作製しているM Sの完成具合を見に来た
のだ。

「現在量産型M S、G N Xシリーズの試作が完成しました。もつと
も試作ですので性能は第二世代よりわずかに劣りますが」

「構いません。あくまで試作なのですから」

「恐れ入ります」

ちなみに今アーミアと会話しているのは金星の責任者だったりする。スペックはヘカターを除けばイノベイド最高のスペックを誇る。

「それとIS型GNドライブですがやはり量産は無理ですね。そもそもあのサイズまでGNドライブを小型化しなければなりません、これは私見ですがISの方も通常のものとは異なっているのではないかと」

「おそらくそうでしょうね。」

こっちは男にも使えますから、まあISについての細かいことはISが世界に出てからで構いません。そもそもあんなオモチャ軍力にはシナプスではなりませんから他国との商売程度にしかあまり使えませんね。

まあ宇宙用の作業服と考えれば優秀でしょうか？」

「そうですね。まあそれもエンジェロイドが量産されればエンジェロイド達が作業すればよくなりますが」

「まったくですね」

そんな会話をした後アーミアは試作GNXを見たのちにソレストルビーイング号に戻った。

現在アーミアはソレストルビーイング号のイノベイド作製室に居る。

現在ではイノベイド作製の殆どが金星でされているため個々で生産されるイノベイドは特別な者だけになり近年では一体も製造されていないなかったりするがそんな所でも特別だと分かる生体ポットの前

でアーミアは作業をしていた。

「肉体調整終了。人格データの移植開始……完了。人格データに損傷なし、オールグリーン、
全て完璧です。さあ目覚めなさいヘカテー」

アーミアは言うと同時に生体ポッドが開き中から裸のヘカテーが出てきた。

「久しぶりですね。ヘカテー」

「はい。久しぶりですアーミア様」

アーミアが笑顔で言うとはカテーも笑顔で返しヘカテーは用意されていた服を着た。

「その肉体はあらゆるスペックに置いて全てのイノベイドをはるかに凌駕しています。」

おそらくは私が成長しても身体能力では劣るでしょう」

アーミアの言った通りヘカテーのスペックはもはや化物で戦闘目的のみに作られた戦闘用イノベイドすら足元にも及ばないほどになっている。

なおこの世界でIS、MS、エンジェロイド系統なしの戦闘能力に順序をつけるとすると現時点でいずれこうなると予想される。

アーミア（ELS使用時）＞越えられない壁＞ヘカテー＞通常の方法では越えられない壁＞アーミア（ELS使用なし）＞戦闘用イノベイド 織斑 千冬 覚醒したイノベイド＞軍人＞非覚醒イノベイド＞一般人、

なおごく一部の例外がある可能性はある。特に非覚醒イノベイドと覚醒イノベイドには、

「それほどですか」

「ええ、さて久しぶりの再会ですから一緒に食事でもとりましょう」
「喜んで」

アーミアはヘカテーを連れイノベイド作業室を後にした。

「そう言えば私もそろそろ表舞台に出るので今後脳量子波での会話になりますね」

「分かりました」

「それにそろそろ最高議会でISに対する会議でもしよっかな」

第十三話 最高議會

「では、會議を始めようか」

アーミアがそう言い會議は始まった。

アーミアは現在ソレスタルビーイング号の一室にいる。そこには円卓上のテーブルがありアーミア以外は後ろに控えているヘカテー以外誰もいないが立体映像が映し出されている。

シナプス最高議會、最高議會は通常の議會とは異なる議會となっており一般には明かされていない議會である。

また最高議會での決定は通常の議會の決定を無視することすらできる。

現在この議會に参加できるものはシナプスの創設者にして支配者でありシナプスにとって神にも等しいアーミア以外では金星責任者、アメリカ支社、ロシア支社、ヨーロッパ支社、日本支社、アジア支社のトップ、スキエンティア家当主、シナプス本国技術主任、特別参加枠の歴代の者ときまっている。

また議會席は円卓上になっており2席空きがあるがそれはいずれ火星に研究所などを建設した際に出来る火星責任者と木星を手に入れた後に出来る木星責任者が座ることになっている。

なお特別参加枠はシナプスの中から選ばれた優秀な者が座れる席だ。

なおこの議會よりも上にアーミア、ヘカテー、ヴェーダによる最高意思統一議會もあったりする。まあそれすらもアーミアは覆せるのだ。そのため最高議會は他の者の意見をアーミアが聞く場と言う方が正確かもしれない。

それに対する不満なども出たことはない。なぜならイオリアを除けば今まで一度も人間が最高議会に参加どころか議員になったこともないのだから。つまりは全てイノベイドなのだから、そして今まで最高議会やアーミアの決定でシナプスが不利益を被ったことが無いからだ。

「さて皆そろそろ対ISに関しての話を始めておこうか、まあ対ISといっても戦闘力での警戒はあまり要らない。もっとも支社は気をつけてくれないといけませんけど、

第1回目の内容はISを出すか出さないか」

「つまりはISの生みの親を事前に殺すか否かですかね？」

アジア支社のトップが言うところアーミアは頷いた。

「そう、ハッキリ言ってISがある方が無かる方がどうでもいい。

ISが世に生まれることによるシナプスのうま味はIS系統による商売。これはシナプスの科学力、IS型GNドライブから取ったデータを元にすれば確実にトップを取れるでしょう。

次にISが生まれればいずれ愚かな人間がシナプスに攻めてくるでしょう。第二次大戦が終わって時が経ちました世界の中には第二次世界大戦終戦後当時に比べてシナプスの科学力はともかく軍事力を侮っている者がいる。まあ表に出しているのは数年以上程度の技術、また大戦当時の他国の技術ではエンジニアロイドがどんなものかどころか使っている武器すら未知でデータも取れませんでしたから仕方がないんですけど、そう言った者たちがISを得れば攻めてくるでしょう。それを一方的に虐殺すれば今一度シナプスの恐怖を教えてあげられるでしょう。

そして私達の知る知識、シナプスが無かった場合の少ないですが未来の知識」

「未来の知識に関しては不要では？ ISの使える男などシナプス

にとつては無価値ですし、ヴェーダがある以上大局は予測できませんから」

「ヴェーダが出したISが世に出た際にシナプスが得る利益の予測は捨てきれないのでは？」

「確かにISが脅威たりえない以上利益を追求するべきかと」

「……うん。そうだね。じゃあISには世に出てもらおうかELSのこともあるしね」

「……なるほどアーミア様はELSが来た際には初めに他国のISをぶつける気ですか？」

「まあね。こっちが勝手に潰してもその驚異の度合いが伝わってないで得るものが減るでしょ？」

ELSが来た際には最低でも木星を取るからね。だからELSが自国の軍事力が通用しない圧倒的な敵と言つのを理解してもらつてからシナプスは動くよ。

それによつて木星とさらなる利権を得る」

「ではISの生みの親になる篠ノ之 束はどういたしますか？」

「ああそれは決まっています。殺しますよ。」

だつて世界を変えていいのも好きにしているのも私と私の作品達、シナプスとイノベイド私側に属するものたちだけなんですから」

「ではISに関しては静観、篠ノ之 束はいずれ抹殺と言つことによろしいでしょうか？」

「うん。じゃ解散」

アーミアがそう言うのと立体映像は消え最高議会は閉会となった。

第十三話 最高議会（後書き）

次の次ぐらいに原作キャラと出会います。

第十四話 日本へ

どうもアーミアです。

また一人称です。

今後は三人称をメインにしていきますがいきなり一人称が入るそうです。

……はっ、私の脳量子波に干渉が！ あの知識の女神で
しょうか？

まあいいです。

さて、今私は4歳と言うことで表に出たんですが予想外のことが
起きました。

まず私の家族構成は父役であるスキエンティア家当主とその夫人
そしてその娘で私の戸籍上の妹となる幼女なんですけど、この妹名
をエミリイと言っんですけど、可愛いんです。

この世界で初めて私の大切にカテゴリーされた人間です。あ、イ
ノベイド含めるとこの世界で初めては当然ヘカテーです。

「お兄様」

「何ですかエミリイ」

おお、エミリイがかけてきました。

……あれ？ そう言えば私前世の時も妹が大切だったん
ですよ。

……まさか私にシスコン属性があつたとは、
いえ、違いますきつと偶々です。

「お婆様が日本に行くから準備しろっていった」

「分かりました。ありがとうございますエミリイ」

「えへへ」

エミリイの頭をなでるとエミリイがくすぐったそうに笑いました。
ああ、可愛いです。

それにしても日本ですか、まあ祖母である華蓮が生きている間は仕方がないですね。

は、面倒です。

シナプスに居る間は好きに出来るんですけどね。

スキエンティア家ではエミリイと華蓮が居ない所ではですけど、

「日本ですか、更識家、使えるか見てみますか」

あの家系古いからイノベイドがあんまり周囲に居ないんですよ。
手伝いも従者も代々ですから、まあある程度は居るんですけど、
この機会に価値を見極めておくのもいいですね。

日本はイノベイドが少ないんですよ。

イノベイドをばらまいた当初はヴェーダに元々入っていた塩基配
列パターンをいじったものから作り出した者たちでしたから、その
中に日本人のは無かったんですよ。

まあ今では政治の上層部とかの重要な所の5割はイノベイドなん
ですけど、

あ、世界的に見ればある程度重要な所の上層部は平均的に6、7
割はイノベイドですよ。

ほら、イノベイドって基礎スペックが非覚醒でも人間よりも上で
すか出世しやすいんですよ。必要なら介入して能力を上げられます
し、

情報操作ですよ無意識化で干渉出来ますから、
まあ日本では更識家が使えるかどうか見極めさせてもらいましょ

ۛ

第十四話 日本へ（後書き）

妹は空気です。

第十五話 更識家（なのに殆どなし）

「はじめまして私はアーミア・A・S・スキエンティアです」

「わ、私はエミリイ・R・S・スキエンティアです」

「私は更識 ■■、よろしくね」

「私は更識 簪です」

「わたしはゝぬのぼとけ ほんねだよゝ。よろしくゝ」

「私は布仏 虚と申します」

こうしてアーミアは後に大切にカテゴリーされる4名と出会った。

（予想外です）

アーミアは衝撃を受けていた。

日本に来て更識邸に厄介になり現当主を見て観察したところ結構使える人物であることが分かったのでアーミアの用事は終わったのだがそれではいさようならとは行かないず更識家の姉妹と更識家に使える布仏家の姉妹と遊んだのだがそれが楽しかったのだ。

（本当に予想外です）

アーミアは気付いていないがアーミアの精神年齢は地味に肉体年

齡に引きずられて長い年月の間に肉体年齢と同じぐらいに幼くなっていたのだ。

しかしアーミアが今まででもっとも接したヘカテを始め接する人物は全員が大人であるために気付かなかったのだ。

さらに前世も合わせて遊んだことがあるのは前世の妹と今の妹だけだったので新鮮でもあったのだ。

こうして更識姉妹と布仏姉妹はとてつもない偶然？　でアーミアの大切にカテゴリーされることになった。

（どうもアーミアです。

あれからたびたび更識家に遊びに行ってます。

え？　幼少期の描写をやれ？

無理です。だって布仏姉妹はともかく更識姉妹は原作と正確違うでしょう？　なのに描写は私には無理です。更新がめちゃくちゃ送れます。

まあそのうち回想みたいな感じでやる可能性はありますが、それにそろそろIS出さないといけないし原作入らないと、
・・・・・・はつまた何かが私の脳量子波に干渉を！？

まあ気にするのはやめましょう。

私の頭脳とヴェーダがそう導きだしました）

閑話休題。

「さてさてそろそろですね」

「はい。アーミア様」

アーミアはヴェーダから送られてきた情報を見ながら笑みを浮かべ口にアメを放り込んだ。

「ISが完成ね。」

そろそろ白騎士事件かな」

「おそろくは」

「あれは出来てる？」

「すでにアメリカに」

「そう、

予定調和とはいえシナプスが、私以外が世界を動かすんだから少しお仕置きしないといけないから白騎士には楔を打ち込ませてもらうよ。」

アーミアは楽しげに呟いた。

（けど、白騎士事件が終わればしばらく私がすることはなくなりますね。

………そうですね超能力の開発でも始めてみましょうか？）

第十六話 白騎士事件

「ふふふ、遂に始まった」

アーミアはソレスタルビーイング号の中でヴェーダから送られてきた情報を見ながら笑って居た。

「白騎士事件、IS発表から1カ月、
この世界に来てから500年、長かったですね。
まあ気にいらなから少し介入したんですけど」

ヴェーダから送られてきた情報、それは日本を射程範囲内とするミサイル基地のコンピューターが一斉に何者かにハッキングされ、2341発以上のミサイルが発射されたと言うものだった。
まあヴェーダは犯人を特定しているが、

「さてと、予定調和とはいえ勝手に世界を動かすんですから代償を払ってもらいましょうか、手始めに親友であり唯一の友人である織斑 千冬を、ヘカテー」

「はい。全て問題なく済みました」

「そう、じゃあ後は高みの見物と行こうか」

アーミアはそう言い獰猛な笑みを浮かべると口にアメを放り込んだ。

現在白騎士は自身の視界に入るミサイルを破壊していた。

それは操縦者の能力の高さもあり圧倒的な光景でそろそろ終わるかと思つて居た時にあれはきた。

（なんだあれは？）

そろそろ終わるかと思つても数は多いミサイルの中であつた1つ他とは形状が似つかない異質なミサイルが自身に向かつてきたのだ。とはいつてもISにはシールドバリアーと絶対防御があるためそこまで問題ではないだろうしそもそも落とせばいいだろうと考えたがそのミサイルが自身にある程度近づいたとき白騎士の操縦者は自身の勘に従い今までのように撃退をするのではなく回避を選択した。しかしそれよりも早くミサイルは外装を外し中からボールペンぐらいサイズの物を射出した。

その殆どを白騎士の操縦者は避けることに成功したが左腕を1つが貫通し他にもいくつかかすめてしまった。

（！？）

白騎士の操縦者はシールドバリアーがいとも簡単に破られたことに同様したがすぐに冷静になると先ほどと同じミサイルが無いことを確認し他のミサイルを破壊した。

「こうして白騎士事件は幕を閉じましたっね」

アーミアはヴェーダから送られてきた白騎士の戦闘をみていたが各国の戦闘機なども退けて撤退すると同時に映像を切った。

「さて仕掛けは成功しましたし時折憂さ晴らしにやりますか」

アーミアがした仕掛けはたった1つのミサイルを配置しそれを発射しただけ、

ただしそのミサイルは特別で対象にある程度近づくと外装を外し中にある棒状のものを発射する。

発射されたそれはナノマシンで構成されておりかすただけでも体内に侵入する。さらに今回ののはシールドバリアー無効機能付き、

このナノマシンでアーミアはいつでも織斑 千冬を殺すことが出来、また苦痛を与えることが出来る。ナノマシンはステルス機能もありけして見つからない。万が一見つかったても正規の方法以外で取り除こうとすると対象を殺す。

なお放置しておいてもこのナノマシンは機能停止まじかになると対象を殺す。

「まあ放置すれば織斑 一夏がIS学園で2年ぐらいの時死ぬでしょうからその時死んでもらいましょう。」

それまでは謎のほっさと言うことで苦しんでもらいましょうか」

アーミアは楽しそうに笑いながら呟いた。

「次はえ〜とああ、IS学園の設立には関わりましたよ。監視システムいれ解けば便利ですし、

あとはモンド・グロツソも多少関わりますか、

あ〜シナプスのIS方面は各支部に任せますか、

そうそう国際IS委員会がシナプスにも口出そうとしたら潰す用意とかないと、

意外と大変ですね。

忘れてたISはコア・ネットワークでコア同士が情報交換するか
それを遮断するのも作らないと」

アーミアは言う口にはアメを放り込み各方面に支持を出し始めた。

第十七話 超能力（前書き）

アーミアが頭脳以外もチートになりました。

第十七話 超能力

どうもシナプス最強の超能力者のアーミアです。

超能力開発が成功しました。

とはいってもシナプスを上げて能力開発はしておらず能力者は数名、正確には5名なのですけど、

とはいってもそのすべてがレベル5ですから、あ、レベルはある魔術の禁書目録の学園都市のものと同じと考えていただいていいですよ。

ついでに超能力も大体とある魔術の禁書目録のものと同じ感じですよ。

まあ全員レベル5といってもイノベイドって最低でもレベル3になれるんですよ。

ほら脳を開発する前から人間と脳のスペックが違いますから、さらにヴェーダのバックアップを受ければ最低でもレベル4です。

さらに多才能力者になれます。まあ多少制限はかかりますが、

まあイノベイドの能力開発には問題があるので現在はその問題を解決するために頑張ってます。

その問題を含めて2つの理由でシナプスで能力開発をしていないんです。

1つ目は脳開発によるヴェーダとのリンクが切断される、正確には脳量子波が使用できなくなること、

これは脳がある意味別物になるわけですから仕方がないんですけどこれはダメです。

現在は研究で能力と脳量子波の両立が出来るんですけどコストが高いです。

なので5名だけです。

2つ目は能力によつてはヴェーダを介してそのイノベイドを操ることが出来なくなる可能性が限りなく低くそれが天文学的な確率であろうとあると言うことです。

すでにイノベイドはオリジナルとは別の私の改造と長きにわたる交配による誕生によつて人工的な生命で無く通常の生命と変わらなくなっています。それがそれでも人とは別なんです。

その最たるものがヴェーダとのリンク、イノベイドは全てこれにより無意識化でシナプスへの不満は危機レベルではけして抱けないようになっています。

まあ不満が出るような政策をしていませんが、

まあそんな理由でおそらく当分はシナプスで超能力開発がおこなわれることはないでしょう。

余談です。超能力開発に関するデータは私の頭の中だけでもしもの場合に備えてヴェーダからすらけしてあります。

ちなみに私の能力は多重能力のレベル5です。

ほら私自分で言うのはなんですけど頭脳チート何で問題なかったんです。

能力名はメインは空間系の能力なんで『空間支配』、

もしくは強力かつ特殊な能力で『能力支配』、

『空間支配』はまず空間移動能力同様転移が出来かつ空間に干渉出来ます。

たとえるなら空間に干渉して対象を潰すとか、

次に範囲が狭まりますが決められた空間内の力を支配できます。

簡単に言えば決められた範囲ならベクトル操作が出来ます。まあそれ以外も出来るんですけど、

『能力支配』は説明は簡単です。とある魔術の滝壺の能力が少々便利になりレベル5になりました。以上です。

まあバンバン使える者じゃないんですけど、

能力者は少ないですし使う機会もないんですけど、

あとは発電とか発熱とか念力とか念話とかぱっと思いつくような

基本的な能力なら平均レベル5で扱えます。

ちなみにヘカターの能力は『液体支配』、元は流体操作系の能力だと思います。

液体なら全てを制します。

なので人間もイノベイドも血液を逆流させて殺せますし、海も操れます。

さらに私もヘカターもヴェーダのバックアップを受ければ能力の支配範囲が広がります。

ちなみにヘカター以外のレベル5の三名もチートです。

今後能力開発は進めますけど能力者は現れる能力が極度に使えたり変わった能力でない限り生み出しません。

あ、あらかじめ現れる能力は大体分かります。

「まあ能力はこんなものでしょう。」

それよりも少々面白く愚かな事が起きそうですね」

私は能力関係の情報を頭の中で整理し終わると、口にアメを放り込みヴェーダが送ってきた情報をみながら笑った。

第十八話 一方的な戦闘

現在シナプス本国に向かって愚か者たちが向かっている。

それはIS二十数機、

シナプスは第二次大戦において絶対の力を示したとはいえそれはすでに過去のことであり外に出しているのは外の2、3年先の技術レベルのものだけ、

そんな中でISのようにシナプスを除けば既存の兵器を有るかに凌駕したものが出れば勝てると思ってしまふのも仕方がないだろう。そもそも絶対に勝てないと世界で言えるのはシナプスの人間とアメリカ、ロシアの上層部と一部の人間、あとは日本の更識家の者たちぐらいだ。

時は近々第一回モンド・グロツソが開催される時、つまり第一世代のISはすでに完成されている。

シナプスに攻撃を仕掛ける理由は多々あるだろう。

まずシナプスはあらゆる国家、組織に干渉されないにも関わらず干渉する権利を所有している。

ISに関してはシナプスのみ条約に縛られておらず、設立されたIS学園にも干渉出来る唯一の国家だ。

さらに通常国家は力の差があれど明確な上下関係と言つものはない。

しかしシナプスは例外だ。所有する権利によって法的にあらゆる国家の上に立っているといっても良いのだ。

そんな国家を倒せる力があれば使いたくもなるだろう。

（それにしてもなぜ支部は攻めないんでしょうか？）

IS二十数機が攻め込んでいると言うのにアーミアは歯牙にもかけずそんなことを考えていた。

（まあ攻めても対処出来ましたが来ない分には好都合ですね。さてさてIS24機、派手に潰しましょう）

ISが攻め込んで来ているのはすでにシナプスの国民も知っているが動揺している者はいない。

それどころか避難するものすらいない。

シナプスに置いてエンジェロイドは作り方などは秘密ではあるが存在は第二次大戦の時とは違い知られている。

表向きはシナプスのトップに最年少で立った天才アーミアが作った意思を持った兵器であり新しい人種、

知られているのもアーミアはイカロスとカオスを復活させた時に国民として暮らせるようにするためのテストケースとして意思の持ったエンジェロイドを国民とするとエンジェロイドの発表と同時に発表したからだ。

そして国民はエンジェロイドを受け入れ信頼関係も出来ている。

エンジェロイドの戦闘能力を知り、エンジェロイドを人としても信頼しているがゆえに不安が無く、さらにアーミアが問題ないとも宣言しているからだ。

余談だがアーミアはすでにシナプスの頂点に立っている。

（こここのところ少々運動不足ですし私も動きますか）

「ヘカデー」

「はい」

「3分の1を私が相手しますので後はエンジェロイドに対応させてください」

「分かりました。お気をつけて」

「ええ、まあ気をつけるまでもないでしょうけど」

アーミアはそう言うと粒子になり消えた。

「さてさて愚か者たちが見えてきました。

弱いだけならまだしも愚か者にかかる情けは無駄です。

1人当たりノルマは8人殺して構いません」

「「はい。マスター」」

アーミアは空中で2人のエンジェロイドに命じた。

現在アーミアは体をELS化しており背中にはGNドライブが付いている。

（さて、始めましょうか、一方的な虐殺を）

アーミアは右腕を筒状に変化させGN粒子をため始めた。

「GN粒子チャージ完了、GN粒子解放」

アーミアの右腕からGN粒子が放たれた。

それは3機のISを呑み込んだ。

「まずは3つと」

アーミアは右腕からGN粒子でできたビームサーベルを出すと高速で移動し敵に斬りかかった。

1機のISがそれをブレードで受け止めたがアーミアが出力を上げると簡単にブレードごと切り捨てられてしまった。

それと同時に残ったISが銃撃をしてきたがアーミアはGNフィールドを展開し防ぐと左腕の甲をGNビームサブマシンガンに変え、ビームを放ち牽制した。

その間にエンジョイドはそれぞれ四機ずつ落としていた。

アーミアは両腰を変えGNフアングを放ちさらに1機落とした。

「……………飽きました。

弱すぎです」

アーミアは言うつと自身の乗るまである残り2機の内一機を能力を使い残りの一機と同じ座標に転移させた。

「ま、ISの絶対防御もシールドバリアーも空間移動による11次元からの干渉は防げませんからこのやり方で簡単につぶせるんですよ」

アーミアは落ちて行く2機のISをみながら言った。

「やっぱり超能力は使えますね。もろもろの事情で人数が少ないですけど」

まあ空間移動系は私以外にもう一人居ますけど」

どうでもいい余談だがシナプスに居る5人のレベル5の能力者（レベル5しかないが）の中でアーミアとヘカテーと除けば一番多忙なのはその空間移動の能力者だ。

能力名は『座標移動』、名前はとある魔術の禁書目録に同じものが出てきたが能力はこちらの方が圧倒的に高く最大移動距離は30km以上で重量は15735kg、さらにそれだけでなく他のイノ

ベイドとリンクすることで距離に関わらずそのイノベイドの半径3m以内に転移出来るのだ。

そのため移動手段として役立つている。そのほかの能力も高いのでシナプスでは何気に高い地位を持っている。

「さてさて、各国はなんて言ってくるんでしょうね。」

まあ大方軍部の暴走ですかね。

ISコアはパワーバランスが崩れると面倒ですから少々仕掛けをして返して上げましょう。まあその代わり色々干渉したり権利をいただいたりしますけど、

まあこれで世界も分かったでしょうISごときではシナプスには意味がないと」

アーミアは転移させ自身の掌の上にあるエンジェロイドと自身が倒したIS24機のコアをELSで浸食しながら笑いながら言った。最後に余談だがGN粒子はISのコアネットワークの通信すら妨害する。

十九話 防衛後

「いやゝよかった。よかった」

アーミアはISによるシナプス襲撃後の会談に満足していた。

シナプス社5大支部はIS登場から徐々に外の人間をより受け入れるようになった。

初めにISの登場により解雇された軍人を労働力として、

これには解雇された軍人たちはすぐさま跳びつき大量の人材を確保することが出来た。

そして女尊男卑が始めてからは男の科学者なども、

これに対して科学者などたちも跳びついてきた。

女尊男卑が始めたから給料や待遇なども女性が優遇されていることもあるし科学者としてはシナプス本社（シナプス本国）と違い数年とはいえ進んだ技術には触れたかったのだ。

もちろん中にはスパイとして入ってきた者居たがそれらは全て断罪された。

シナプス社に入ると同時に名誉シナプス人となる。

それ以外の者はシナプス人しか5大支部に入ることすらできない。そして5大支部はその広さから都市として機能しているので5大支部に入社した者たちはそこで暮らしている。

つまり名誉シナプス人になる＝シナプスの支部であり都市で暮らすことになる＝シナプスの法が適応される。

つまりスパイなどは全ての人権が剥奪される。

大抵のスパイの末路は人体実験のモルモットである。

しかし自分達が解雇した軍人ならともかく優秀な科学者を引き抜

かれた各国の反発は強い。それはISと言う強力な兵器を持ったことも理由であった。

そして今回攻めてきたのは強く反発していた国でありその国には膨大な貸しを作ることが出来たためもう文句を言えないだろう、言ってきたら攻めてきたことを理由に攻めるとそれとなく伝えたことだし、

そして他の国もISを齒牙にもかけないシナプスに睨まれたくはないだろうから問題ない。

「さてさて次はこの茶番劇で遊ぼうかな」

アーミアが言うと目の前に映像が映し出された。

内容は第一回モンド・グロツソ、

これはアーミアに言わせれば茶番劇だ。

これの勝者はすでに決まっている。織斑 千冬だ。
搭乗時間が違うのだ。

登場機体の武器がブレード一本などあの単一能力ならブレードだけにし他の部分を機動力に回したって現段階のISが相手なら一切問題ない。

結果が決まっているなら過程を楽しむしかない。

まあ過程が一番楽しいのだが、

シナプスは第一回モンド・グロツソには参加しないことになっている。

まあ無理やりいれようと思えばできるのだが、

「んじゃ、

茶番劇に茶番劇を重ねようか」

アーミアはIS委員会に連絡をした。

そして第一回で決まったブリュンヒルデとシナプスのIS操縦者

のエキシビションマッチが決定した。

第二十話 原作キャラフラグ

「ちょっといいかい？」

頼みがあるんだ」

アーミアがモンド・グロッソで出すISについて考えているとスカリエッティが話しかけてきた。

余談だがシナプスに置いてISは支部は開発していても本国はしていない。

せいぜい思いついた案や設計図を支部に送るぐらいだ。

「これは珍しいんですか？」

スカリエッティがアーミアに頼みをしたことがスカウトの際にウーノもと言うのと娘を作る際のみだったためアーミアは少々驚いた。余談だがスカリエッティの子はウーノが子供の産めない体質の為全員が体外受精で作られた子供だ。

さらに何を思ったかスカリエッティは機械による改造を施している。

ぶつちやけリリカルの戦闘機人だ。

「ああ、この子をシナプスに呼べないかな」

言われ渡された書類にアーミアが目を通すと現在の自身の肉体年齢と同じ年ぐらいの子供が移っていた。

「……ウーノと言うものがありながらロリに走るんですか？
ウーノに報告しておきますね。」

さようならスカリエッティ、貴方のような優秀な科学者を失うとはシナプスにとって不利益ですが夫婦間の問題に関わる趣味はありませんので、

安心してくだしさいあなたは数少ないシナプス本国に招かれた外のお人間です。きっと歴史に名を残すでしょう」

「違うから！」

アーミアが白い目でスカリエッティを見ながら言うと呼びながら否定した。

「この子は僕の子供に当たるらしい」

「………愛人が居たと？」

まあシナプスは多妻が認められていますけどウーノにはちゃんと
言った方がいいと思いますよ。

けどやっぱりさようならになりそうですね。スカリエッティ」

「違うから！」

………どうやらこの子は私とウーノの遺伝子情報を元にド
イツが作った子供らしい」

「へっ」

スカリエッティは言うまでもなく天才だ。

それもシナプス本国に招かれる程のそしてウーノは何気に特殊訓練を受けた過去があり戦闘能力が高い。普通の人間ならトップクラスだ。

作り出す価値はあるだろう。

「どうやってドイツまで流れたんだか」

「それはシナプスに来るまで色々子供を授かるために試したからね」

「なるほど」

その子供に興味を持ったアーミアがもう一度書類を今度はよく見るとあることに気が付いた。

（これ、原作登場人物）

書類の子供は原作キャラのラウラ・ボーデヴィツヒだった。

（そう言えばリリカルのチンク？ に似てるって話しがあつたような）

そんなことを一瞬考えたがすぐさまアーミアはどうするかを考え始めた。

（……問題ないですね。

原作を守るのはあくまで情報の為、しかし元からあやふやの情報のうえシナプスがある以上あまり役に立たない。

あるとすれば私以外の転生者が居たとして原作を出来る限り守り転生者の介入ではなくパレルワールドと思わせることぐらい。シナプスの規模だと逆に転生者を疑いませんよね？ だって歴史がー応ありますし、

まあラウラ・ボーデヴィツヒの立ち位置が必要になったらそこに誰かを入れればいいだけですし、もしかしたら修正力で勝手に入るかもしれないですし）

「分かりました。

ドイツには貸しがありますから取引しておきます。ついでに遺伝子情報も破棄しておきます」

ドイツもシナプスを侵攻した国の1つなのだ。

もつともある軍の派閥の暴走だったが、

そしてシナプスは侵攻してきたISのコアを返却している。

ただしISが1国3個以上の場合には3個中1個貰って居る。

ドイツから攻めてきたのは3機、つまりシナプスには元々ドイツのものだったコアが1つある。

それを返却すればたやすいだろう。

既にシナプスではISコアの量産が可能だ。

もつとも意識のようなものは持たせないし持たせるとしたらデザインした意思を持たせ個体ごとに違うなど不確定なことは無いようにするが、

遺伝子に関してもどこにあるかは調べればすぐに分かるしデータはすぐに消せる。

保存されている現物ならそう言った施設には確実にイノベイドが居るため事故を装ったりしてけせばいい。

「助かるよ」

「まあ兵器として育てられたみたいですから教育はそっちでしてくださいってそっちはウーノがやりますね」

「そうですね」

こうして原作キャラがシナプスに訪れることになった。

まあキャラは崩壊するだろうが、ウーノの教育によって、

第二十一話 モンド・グロッソ

「さて、始めますね」

アーミアは呟くと脳量子波を使った。

ラウラ準備は？

問題有りません

アーミアはモンド・グロッソの会場にいるラウラと脳量子波によりコンタクトを取った。

なおラウラの名前はスカリエッティの子供がウーノからとり数字が名前になっているため仲間はずれは可哀相と言うことでラウラ・^{チンク}C・スカリエッティとなっている。

機体のスペックは相手を上回っており操縦者であるあなたの技量はISの訓練時間の問題で劣っているでしょうが肉体スペックでは上回っていますけど油断はせず完膚なきまでに潰しなさい。

あなたは我がシナプスの代表として底に居るのですから了解しました

アーミアは脳量子波による通信を切ると呟いた。

「ま、私の計算でもヴェーダの計算でもラウラが勝つ確率は99.9%以上なんですけど」

モンド・グロツソの会場にいる者たちは驚愕していた。

全ての大会が終わった後に行われることになった総合部門優勝者とシナプスのIS操縦者によるエキシビジョンマッチ、

誰もがシナプスの送りだしてくるISに注目していた。それこそ今大会の結果以上にとってもいいほどに、

シナプス、5大支部はシナプス以外の数年前の技術を持ち本国はその数倍とも十倍進んでいるともいわれる国家、

先に一部の暴走で多数のISに攻められたが造作もなくそれらを撃退した世界最強の国家、

その国家が送り出してきたISだ注目を集めるのは当然だろう、

しかし驚愕の理由はISではない。その操縦者だ。

まだ幼い子供なのだ。

シナプスからの情報ではラウラ・C・スカリエッティとなっている。

スカリエッティの名は有名だ。シナプス支部に招かれるものならいるが本国に招かれたものは5人にも満たないのだ。

しかもその子供が今大会の総合優勝者を相手に圧倒しているのだ、つまり子供をここまでの実力者にすることがシナプスに出来るか子供でも他国のIS操縦者なら圧倒できる程の機体を作り出せるかと言っことになる。

驚愕するには十分だろう。

（普通の人間にしては早いな）

ラウラは千冬をそう判断した。

ラウラは純粋な人間ではない。

生まれも特殊だが現在ではもつと特殊だ。

今のラウラはアーミアとスカリエッティの脅威の科学力で改造された戦闘機人だ。

スカリエッティが姉妹は同じ方がいいだろうという理由で戦闘機人にされたのだ。

（シナプスの代表としてここにいる以上敗北は許されない。
使つか）

ラウラがそう考えると左目を起動させた。

ラウラの瞳は原作のヴォーダン・オージェとは違いアーミアが作ったものだ

名はウラノス・オクルス、

ウラノス・オクルスの性能はヴォーダン・オージェとは比べ物にならない。

現に今ラウラには今刀を構え高速で接近してきている千冬がまるで歩いて向かってくるような速度に見える。

ただしリスクがある。

普通の人間なら数十秒使えば脳が壊れる。

イノベイドでは戦闘型が1時間ほど、普通のイノベイドが10分ほど、普通のイノベイドでもウラノス・オクルスはナノマシンによるもののため初代、つまり母体から生まれたものではなく作られたものは数十分使用できる。

また普通のイノベイドでも調整すれば数十分、完全に合わせるためにチューンされ生み出されたイノベイドなら1日は問題ない。

ラウラは元はイノベイドではない人間だが戦闘機人になる際に左

目のヴォーダン・オージエを改良したので正確には疑似ウラノス・オクルスと言った方が正確だ。

性能は僅かに劣るものの使える時間は伸び戦闘機人になる際に肉体が合うように調整されたので1時間はもつ。

「悪いがお前では私の相手をするには弱すぎる」

ラウラはブレードを構えると千冬に向かってそう言い放ち高速で接近し始めた。

ラウラのISはGNX-101T スローネ ヴァラヌス（なおどうでもいい話だがOOSローネ ヴァラヌスはGNX-509TだがあくまでシナプスのISのため番号が違う）のだ。

シナプスは後に出す量産機のベースになる予定の機体である。

武装は実剣のブレードがあるぐらいで他の武装はOOのスローネ ヴァラヌスと変わらない。

速度はヴァラヌスが勝りラウラがブレードを振りおろそうすると千冬がそれを防ぐようにブレードを動かすがそれがスローで見えるラウラはその動きに合わせてブレードを動かし千冬のブレードを弾き飛ばした。

「!?!」

完全に動きを見切られ武器を弾かれたことに驚愕し距離を取ろうとしたがラウラも距離を取るとロングバレルライフルを取り出し放った。

千冬はそれを食らったがまだシールドバリアーのエネルギーは残っていたため唯一の武器で有るブレードを取ろうと移動しようとしたがラウラはそれを許さずブレードで切り裂いた。

その一撃でシールドバリアーのエネルギーは底をついたためあっさりとラウラの勝利が決まった。

第二十一話 モンド・ゲロッソ（後書き）

アンケート？ です。

ラウラの呼ばれ方などはラウラが良いですかチンクが良いですか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0382s/>

神すら予期しなかった天才イレギュラーはトリップする（タイトルは仮です）

2011年11月5日20時58分発行